

平成 29 年度
全国簿記教育研究協議会資料一覧

- 1 平成 29 年度全国簿記教育研究協議会要覧
- 2 第 84 回 問題・答案・審査基準（会計・原価計算・2 級・3 級）
第 85 回 問題・答案・審査基準（会計・原価計算・2 級・3 級）
- 3 全商簿記実務検定試験の出題内容について
- 4 新学習指導要領に対応した全商簿記実務検定試験について
- 5 平成 30 年度 第 34 回全国高等学校簿記コンクールについて
- 6 平成 29 年度 各種研究協議会資料（講話）
文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室
教科調査官 西 村 修 一 先生
- 7 平成 30 年度以降の変更点等について 2 セット

- 。 合格発表日 ← アップロード X + D の 翌日。
合格番号が振付と一致する合格となる。
アップロードが遅れる学校もあるので、発表日を連絡
で確認。
- 。 途中退室 ← 不正行為を正す環境を作るため

平成29年度

全国簿記教育研究協議会

期 日 平成30年3月17日(土)

会 場 全 商 会 館



主 催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

目 次

全国簿記教育研究協議会次第	1
来賓・大会役員・委員名簿	2
指定代表者参加者名簿	3
出題方針と答案審査基準について	4
簿記検定協議事項	5
全商簿記実務検定試験 1 級原価計算の問題校正の変更について	19
第 85 回簿記実務検定試験誤答調査一覧表	20
第 84・85 回簿記実務検定試験第 1 級満点賞合格者	24
第 84・85 回簿記実務検定試験申込者数・受験者数・合格者数集計表	26

全国簿記教育研究協議会 次第

日 時	平成30年3月17日(土) 午後1時30分 ～ 午後5時00分		
会 場	全商会館二階大会議室		
受 付	午後1時00分～ 午後1時25分		
開 会	午後1時30分		
開会の辞	簿記研究部部長 東京都立葛飾商業高等学校長	昼 間 一 雄	
挨拶	全商協会理事長 東京都立第三商業高等学校長	中 山 博 之	
来賓紹介	簿記研究部部長 東京都立葛飾商業高等学校長	昼 間 一 雄	
講 話	午後1時55分 ～ 午後2時15分 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課産業教育振興室教科調査官	西 村 修 一	
議長選出			
議 事	午後2時20分 ～ 午後4時00分 (1) 出題方針・審査基準・総括 (2) 各級の出題に関して(3級・2級・1級 会計/原価計算)	午後2時20分～午後2時30分 午後2時30分～午後3時20分	
	《 休 憩 》		
	(3) 将来の運営等 (4) 質疑応答	午後3時35分～午後3時50分 午後3時50分～午後4時00分	
報 告	午後4時00分～ 午後4時50分 (1) 全商簿記実務検定試験の出題内容について (2) 新学習指導要領に対応した全商簿記実務検定試験について (3) 平成30年度 第34回全国高等学校簿記コンクールについて (4) 事務局より(事務局次長)	午後4時00分～午後4時10分 午後4時10分～午後4時20分 午後4時20分～午後4時30分 午後4時30分～午後4時50分	
閉会の辞	簿記研究部副部長 横浜市立横浜商業高等学校長	長 田 正 剛	
閉 会	午後5時00分		

来賓・大会役員・委員

来 賓

文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

西 村 修 一

大会役員

全商協会理事長	中 山 博 之	(東京都立第三商業高等学校長)
全商協会副理事長	山 田 典 男	(埼玉県立深谷商業高等学校長)
〃	川 口 伊佐夫	(大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校長)
全商協会総務部長	大 林 誠	(東京都立第一商業高等学校長)
全商協会経理部長	松 本 吉 充	(千葉県立千葉商業高等学校長)
全商協会調査・広報部長	梶 寛 治	(埼玉県立浦和商業高等学校長)
簿記研究部長	昼 間 一 雄	(東京都立葛飾商業高等学校長)
簿記研究部副部長	長 田 正 剛	(横浜市立横浜商業高等学校長)
事務局 長	浅 野 達 也	(全 商 協 会)
事務局 次 長	岡 本 次 夫	(全 商 協 会)

委 員

代表作問委員	鈴 木 潤 美	(北海道旭川商業高等学校)
〃	石 川 勝 久	(岐阜県立大垣養老高等学校)
〃	菊 池 ゆかな	(和歌山県立和歌山商業高等学校)
〃	田 中 幸 一	(香川県立坂出商業高等学校)
副部長 (専)	鈴 木 友 則	(群馬県立高崎商業高等学校)
専門委員	木 藤 則 行	(東京都立第三商業高等学校)
〃	浅 野 進	(茨城県立古河第一高等学校)
〃	池 田 宏 史	(東京都立芝商業高等学校)
〃	根 岸 毅 尚	(栃木県立高根沢高等学校)
〃	伊 藤 壽 章	(神奈川県立小田原東高等学校)
〃	本 島 通 宏	(栃木県立宇都宮商業高等学校)
〃	木 村 定 信	(千葉県立東金商業高等学校)
〃	高 柳 雅 恵	(桐生市立商業高等学校)
〃	菅 原 さき子	(山梨県立塩山高等学校)
〃	下 川 和 広	(埼玉県立越谷総合技術高等学校)
〃	箱 守 英 雄	(茨城県立石岡商業高等学校)
〃	新 井 貴 弘	(埼玉県立羽生実業高等学校)
〃	本 みゆき	(埼玉県立戸田翔陽高等学校)
〃	森 田 義 大	(埼玉県立八潮南高等学校)
〃	滝 澤 大 地	(千葉県立東葛飾高等学校)
〃	勝 和 大	(千葉県立一宮商業高等学校)
事務局	鈴 木 庸 子	(全 商 協 会)
〃	今 田 和 佳	(全 商 協 会)
〃	三 輪 知 也	(全 商 協 会)

指定代表者参加者

No.	都道府県	学 校 名	氏 名	No.	都道府県	学 校 名	氏 名
1	北海道	道・旭川商業高等学校	末 廣 聡 佳	25	京 都	府・京都すばる高等学校	新 開 正 規
2	青 森	県・三沢商業高等学校	佐々木 郁 子	26	大 阪	市・大阪ビジネスフロンティア高等学校	鈴 木 康 史
3	岩 手	県・盛岡商業高等学校	日 下 強	27	兵 庫	県・姫路商業高等学校	都 倉 佳 子
4	宮 城	市・仙台商業高等学校	島 田 修	28	奈 良	県・奈良朱雀高等学校	福 西 峻
5	秋 田	県・五城目高等学校	石 塚 委	29	和 歌 山	県・和歌山商業高等学校	田 中 文 崇
6	福 島	県・若松商業高等学校	中 里 充	30	鳥 取	県・倉吉総合産業高等学校	山 本 悟
7	茨 城	県・石岡商業高等学校	中 嶋 龍	31	島 根	県・出雲商業高等学校	後 藤 光 昭
8	栃 木	県・宇都宮商業高等学校	竹 中 直 子	32	岡 山	県・倉敷商業高等学校	近 藤 昌 幸
9	群 馬	県・伊勢崎商業高等学校	高 田 博 之	33	広 島	県・呉商業高等学校	森 一 将
10	埼 玉	県・深谷商業高等学校	中 丸 秀 和	34	山 口	県・岩国商業高等学校	山 口 敏 美
11	千 葉	県・一宮商業高等学校	霍 岡 慎 一	35	香 川	県・高松商業高等学校	松 口 哲 也
12	山 梨	県・増穂商業高等学校	笠 井 幹 彦	36	徳 島	県・富岡東高等学校	中 野 敦 代
13	東 京	都・赤羽商業高等学校	宇 野 修一郎	37	愛 媛	県・松山商業高等学校	清 水 康 弘
14	神 奈 川	市・横浜商業高等学校	岩 瀬 紀 子	38	高 知	市・高知商業高等学校	井 上 学
15	新 潟	県・新潟商業高等学校	古 川 徹	39	福 岡	県・宇美商業高等学校	田 原 憲一郎
16	富 山	県・高岡商業高等学校	加 藤 和 弥	40	佐 賀	県・佐賀商業高等学校	彌 富 美貴子
17	石 川	県・金沢商業高等学校	杉 本 ゆかり	41	長 崎	県・佐世保商業高等学校	松 永 一 郎
18	福 井	県・福井商業高等学校	田 嶋 基 史	42	熊 本	県・八代東高等学校	渡 辺 郁 子
19	長 野	県・長野商業高等学校	大 槻 高 範	43	大 分	県・大分商業高等学校	松 尾 真由美
20	静 岡	県・伊東商業高等学校	岩 下 大 祐	44	宮 崎	県・富島高等学校	西 村 勝 治
21	愛 知	県・豊橋商業高等学校	長 岡 公 洋	45	鹿 児 島	市・指宿商業高等学校	草 道 拓 郎
22	岐 阜	市・岐阜商業高等学校	小 川 真 也	46	沖 縄	県・南部商業高等学校	與那覇 彰 子
23	三 重	県・津商業高等学校	村 田 里 美				
24	滋 賀	県・彦根翔西館高等学校	相 坂 太 輔				

パターン化、マンネリ化を
防ぐようにする。

出題方針と答案審査基準について

① 出題の方針について

全商簿記実務検定は、日頃の学習の成果を測定するという面を持っています。従って、日頃、真面目に先生の指導に従って学習していれば、ある程度の目標が達成できるようなという観点から作問しております。

(1) 出題の範囲

出題の範囲については、現行の学習指導要領にもとづいて作成いたしました「出題範囲表」にしたがっていることはもちろんですが、従来どおり、努めて偏ることのないように、全般にわたって出題いたしました。

(2) 出題の資料

従来どおり、教科書および過去に出題した全商簿記実務検定ならびに全国簿記教育研究協議会のご意見・ご要望等を考慮し作問の資料といたしました。また、新しい会計基準に関した最新文献・論文等も参考といたしました。

なお、例年、道府県代表作問委員（4名）に参加いただき、1月検定と6月検定について、どのような問題を出題するかを決定する「アイディア会議」をおこない、全体の骨組みを決定し、専門委員および道府県代表作問委員で各級を分担して作問しております。

(3) 問題の程度

基礎・基本に重点をおくことはもちろんですが、一部に偏ることのないように配慮いたしました。また、可能な限り新しい問題を取り入れることにより、新鮮みを出すように努めております。さらに、上位級については、出来る限り、思考力・判断力を問う問題を取り入れるようにいたしました。

《3級》

3級については、簿記の基礎・基本を対象とするものですので、簿記の基本原則・仕訳・元帳記入・補助簿記入・伝票の起票・計算と文章問題・決算など全分野にわたって出題いたしました。

出題の形式については、①は仕訳問題、②は伝票の起票、③は帳簿記入、④は計算・用語問題、⑤は決算の問題としました。全般にわたり、出来る限り考える問題を取り入れましたが、奨励級として、より一層、基礎・基本を重視して作問しております。

（第84回）④(2)は、残高式による売上勘定、仕入勘定と商品有高帳の記入面から、先入先出法による商品有高帳の理解を問う出題といたしました。⑤の決算の問題は、貸借対照表の作成および給料勘定の記入・締め切りをする問題といたしました。

（第85回）④(2)は、受取手形記入帳を提示し、手形売却損勘定との関係を問う出題といたしました。⑤の決算の問題は、損益計算書の作成および備品勘定の記入・締め切りをする問題といたしました。

《2級》

2級については、①は仕訳問題、②は帳簿組織、③は伝票と本支店他、④は決算の問題といたしました。

（第84回）③(2)の本支店は、本店の貸借対照表と支店の損益勘定および資料から、支店側が当期純利益を計上したさいの損益勘定への記入、本支店合併後の当期純利益および期末商品棚卸高の計算を問う出題といたしました。

（第85回）③(1)本支店は元帳勘定残高・本支店ともに未記帳の取引を含む付記事項・決算整理事項から、本支店合併後の本店勘定と支店勘定の一致額、買掛金、売上総利益を求める問題といたしました。

④の決算の問題は、第84回、第85回ともに、損益計算書と貸借対照表を作成する問題ですが、決算整理仕訳をするさいに、付記事項の取引をしっかりと理解できるかを問う問題といたしました。

《1級：会計》

会計については、③では①、②、④で出題できない原則・会計処理についての理論問題を出題し、④では損益計算書・貸借対照表の理解を問う出題としています。

（第84回）②(1)では、2社の貸借対照表および資料を提示し、金額や比率、比率の示す意味を問う出題といたしました。また(3)では、連結1年度末の連結貸借対照表に計上する非支配株主持分の金額を求める問題といたしました。

（第85回）②(1)では、資料および貸借対照表と2区分損益計算書とを提示し、比率や比率の意味を問う出題といたしました。(2)では、連結1年度末の連結貸借対照表に計上するのれんの金額と非支配株主持分の金額を求める問題といたしました。また④(2)では株主資本等変動計算書を作成する問題といたしました。

《1級：原価計算》

原価計算については、②または④で、総合原価計算と個別原価計算を出題し、③では、計算問題、直接原価計算、標準原価計算を出題しています。

（第84回）②は組別総合原価計算からの出題といたしました。③(3)では減損を含む単純総合原価計算、(4)では標準原価計算、(5)では直接原価計算についての出題といたしました。④では個別原価計算についての総合問題といたしました。

（第85回）②は減損を含む単純総合原価計算からの出題といたしました。③(2)では等級別総合原価計算、(3)では標準原価計算、(4)では直接原価計算についての出題といたしました。④では、個別原価計算についての総合問題といたしました。

なお、各級とも、内容に偏りがなく、いろいろな問題が出題できるよう努めております。出題の順番ということにこだわらず、満遍なくご指導いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

② 答案審査基準について

(1) 答案審査基準は、受験生の成績に大きな影響を与えますので、その作成には十分に注意を払いました。

(2) 採点箇所には、次の4つの点に配慮いたしました。

- ① 大きな問題では、その中心となる部分ばかりでなく途中の段階および最終の段階も採点箇所といたしました。
- ② 1箇所誤ったことにより、他の採点箇所も減点されることのないように極力配慮いたしました。なお、当期純利益などの最終段階はこれに該当しないと考えております。
- ③ 過去に出題されていない新しい傾向の問題では採点箇所に十分な配慮をいたしました。
- ④ 配点は各級とも、原則として1箇所4点または3点といたしました。一部に2点の配点を加えました。ただし、同一の問題では1箇所の配点を同一にいたしました。

③ 得点24 全体の得点は変えない。
本支店・伝票集計・その他計算問題の得点は
流動的に変更(2~6)。(現在は9・9・6)

採点にあたり
「審査基準・解答」の
表紙にある一般注意を
しっかりと読んでほしい。

〔総括〕 第84回

- ① 全体的に良問であった。(山口)
- ② 合格率に差が出たものの、いずれの級、科目ともに、内容的にも難易度的にもバランスの良い妥当な出題であった。(宮城)
- ③ 奨励級として、簿記、財務会計、原価計算の基礎的な内容が重視された標準的な問題であるとともに、思考力を問う良い問題であった。(京都)
- ④ 例年通りの内容だが新しい形式の出題があると混乱するため、サンプル問題を提示していただけたらありがたい。(静岡)
- ⑤ 解答用紙について
二つ折りになっていますが、ミシン目を入れていただき採点の時に、2枚に分けられるようにしていただくとありがたいです。(愛知) *予算面が厳しい、解答用紙*
- ⑥ 問題用紙が両面印刷なので配布時に困ります。見えなように計算用紙や答案用紙を上から重ねていますが、同じ条件で試験が実施できているのか心配です。問題用紙の構成を改善してほしい。(長崎) *問題用紙の構成は厳しい*

〔総括〕 第85回

- ① 各級ともに基礎・基本を押さえながら、斬新な出題も見られ、理解力を問う最適な出題であった。(宮城)
- ② 新傾向の出題もあったが、難易度が調整されており、各級ともに良問であった。(栃木)
- ③ 良問であった。(群馬)
- ④ 各級とも適切な問題であると思います。(愛知)
- ⑤ 基礎基本を大切にしながら、思考力を問う良い問題が多かった。(京都)
- ⑥ 導入級としては、3級の全国合格率はもう少し高くても良いのではないかと。(京都)
- ⑦ 「簿記実務検定試験施行細則」の答案の記入について、「朱記すべきところは赤インクまたは赤鉛筆を用いること」とされているが、2級の4答案審査基準に「(注意)※印の売上総利益と当期純利益の記入は赤記でもよい」となっているのは、「黒記でもよい」のほうが正しいのではないのでしょうか。(愛知)
- ⑧ 難易度を変更する場合は、全体の級をバランスよく行うことを希望したい。(大阪)
- ⑨ 全商主催の検定・簿記コンクール・日商主催の検定の内容が異なるため、すべてに挑戦する生徒の負担が大きい。方向性を合わせることは不可能か。(和歌山)

簿記検定協議事項の提案について
 ・校長のチェックを受け、お礼の提出
 6月と1月と分けて提出
 ・XとYとを必ず守る。
 ・意見、要望がもっとも提案する。

〔3級〕 第84回

全 般

- ① 基本的な内容を問う良問であった。(青森)
- ② 良問であった。(秋田・茨城)
- ③ 全体的に良問であった。(富山)
- ④ 良問である。(福井)
- ⑤ 導入級として、標準的な良い問題である。全体的にバランスのとれた適切な出題内容である。(京都)
- ⑥ 奨励級として、基本的な内容を問う良問であった。(鳥取)
- ⑦ 適切な問題であった。(香川)
- ⑧ 基礎・基本を問う良問であった。(愛媛)
- ⑨ 例年通りで適当であった。(沖縄)

1 仕 訳

- ① 適切な問題であった。(奈良)
 - a ① 付随費用を備品の金額に加える良い問題である。(滋賀)
 - ② 付随費用は具体的な内容(据付費など)を示してもよかったのではないのでしょうか。(大分)
 - b ① 商品券の扱いについて理解不足の答案が多く、指導の強化が必要であると感じた。(熊本)
 - c ① 小口現金の正答率が低かった。(岐阜)
 - e ① 貸し倒れを問う良い問題である。(滋賀)

2 伝 票

- ① 取引の記帳の流れを、伝票や補助簿等に記帳できるかを問う、基本的で適切な問題であった。(奈良)

3 仕訳帳・元帳・補助簿

- ① 取引の記帳の流れを、伝票や補助簿等に記帳できるかを問う、基本的で適切な問題であった。(奈良)
- ② 配点が少し高すぎる。記帳方法を覚えさせる問題に時間をかけるより、文章題等で考えさせる問題にしてはどうか。(北海道)
- (2) ① よく考えないと答えを導くことができない問題であり、良問であった。(熊本)

4 補助簿・計算

- (1) ① 資料の与え方が新鮮で良かった。(奈良)
- (2) ① 売上勘定と商品有高帳の関係が理解できていないと解けない問題であり、非常に新鮮でよく練られた良問であった。(奈良)
- ② 良問には違いないが、総勘定元帳が「残高式」であったことに、多少戸惑いを感じた。(三重)
- ③ 商品有高帳が苦手な生徒が多く、イの誤答が多かった。(鹿児島)
- (2) イ ① 良問であるが、判断と思考力がやや問われ、正答率が低かった。(佐賀)

5 決 算

- ① 決算についての基礎・基本的な内容を問う、標準的で妥当な問題である。(奈良)
- ② 導入級としては、貸借対照表と損益計算書の両方を作成させるのがよいのではないかと。(京都)
- (1) ① 採点箇所はaよりcの方が良い。(静岡)
- (2) ① 給料をあえて答えさせなくてもよかったのではないかと。(岐阜)

- ② 給料勘定の記録が、合計額で示しているのは違和感があります。同じ費用の勘定の締め切りを問うのであれば、他の勘定（例えば保険料など）が望ましいと思いました。（大分）

合 63.6%

〔3 級〕 第 85 回

全 般

- ① 全体的に良問であった。（北海道・富山）
 ② 良問であった。（青森・山形・茨城・群馬・山口）
 ③ 基礎基本を踏まえた、普段の学習成果が現れる良問であると感じました。（秋田）
 ④ 導入級として、標準的な良い問題である。全体的にバランスのとれた適切な出題内容である。（京都）
 ⑤ 奨励級として、基本的な内容を問う良問であった。（鳥取）
 ⑥ 適切な問題であった。（香川）
 ⑦ 難易度が安定しており良問であった。（熊本）
 ⑧ 全般的に基礎・基本を重視した問題であると感じました。（大分）
 ⑨ しっかり学習していたら解答できる良い問題だと思います。（沖縄）
 ⑩ 簿記の内容を理解していないと解けないような問題が多くあった。問題の形式に関係なく、問題を解けるように指導していきたいと思う。（愛媛）
 ⑪ 導入級としては、3 級の全国合格率はもう少し高くても良いのではないか。（京都）
 ⑫ 奨励級として、基本的な内容を問うバランスのとれた問題であった。毎回のことではあるが、配点が偏りすぎて、どうにかならないものかと考えている。（奈良）

1 仕 訳

- ① 他の問題との兼ね合いの中で、中々変化をもたせられない中で、様々な工夫が見られ、仕訳の基本的な内容を問うていた良問であった。（奈良）
 ② 「小口現金」「貸倒処理」の仕訳を 84, 85 回と連続で出題するよりも、商品売買の取引を出題すべきだと思う。（秋田）
 ③ 仕訳問題で小切手・現金に関する問題が多く、手形に関する問題が少なかった。（大阪）
 ④ 貸倒損失や仮受消費税の仕訳問題が難しく、不正解の生徒が多かった。推奨級なので難易度の調整をお願いしたい。（栃木）
 a ① 勘定科目が「建物」なのか「保険料」なのかで迷った生徒がいるので、良問だった。（熊本）
 f ① 貸し倒れの処理で貸倒引当金の残高が不足した場合の「貸倒損失」が答えられていない者が多かった。（鹿児島）
 h ① 「税抜き方式による」だけの表現でよい。科目群には、仮受消費税勘定しか記されてないのだから、「仮受消費税勘定を用いている。」という表現はいい。または、仮払消費税も科目群に加えるべきである。（三重）

2 伝 票

- ① 伝票の起票についての基本的な問題であり、適切であった。（奈良）
 ② 出金伝票に起票する取引が切手・収入印紙の購入が多

い。（大阪）

3 仕訳帳・元帳・補助簿

- ① 記帳の流れや記帳方法などの基礎・基本をおさえた良問であった。（奈良）
 ② 1 月 25 日に関して、給料の支払い時の取引を記帳させる意図は何でしょうか。平成元年以来、帳簿に関する問題は商品売買（営業取引）が中心だったと思いますが。（大分）
 ③ 仕入帳または売上帳の作成の出題もあってもよかったのではないかな。商品有高帳の出題について、移動平均法での出題が少ないのではないかな。（京都）
 ④ 買掛金元帳の採点箇所について借・貸の欄も採点にふくめては。（大阪）
 ✓(2) ① 商品有高帳の記入が久しぶりに出題され、良問だった。（熊本）
 ② 商品有高帳より、仕入帳・売上帳の記入をさせるほうが重要ではないか。（三重）

4 補助簿・計算

- (1) ① 文章で表す問題のほうが、受験生はイメージを膨らませやすいのでもいいと思う。（奈良）
 (2) ① 手形債権の発生と消滅について理解できているかを問う良い問題であった。（奈良）

5 決 算

- ① 決算についての基礎・基本的な内容を問う、標準的で妥当な問題である。（奈良）
 c ① 計算式の記載は不要。（三重）

〔2 級〕 第 84 回

全 般

- ① 適切な出題内容である。全体的に良問である。（北海道）
 ② 良問であった。（青森・岩手・茨城・群馬・福井）
 ③ 全体的に良問であった。（青森・富山）
 ④ 奨励級として、基本的な内容を問う良問でした。（鳥取）
 ⑤ 標準的な良問であり、質、量ともに適切である。（京都）
 ⑥ 標準的な問題、新傾向の問題、工夫を加えた問題と大変練られており、興味深い問題であった。（奈良）
 ⑦ 適切な問題であった。（香川）
 ⑧ 基礎・基本を問う良問であった。（愛媛）
 ⑨ 例年通りで適当であった。（沖縄）

1 仕 訳

- ① 仕訳問題でケアレスミスする受験生が多く感じた。（青森）
 ② 損益の振替仕訳が 84 回・85 回で同じ内容で出題されていたが意図は何か。（茨城）
 ③ 標準的な問題であり、過去問や模擬試験などで答案練習を繰り返し学習した生徒であれば、問題なく解ける問題であった。（奈良）
 a 未収金と答える生徒あり。（静岡）
 b ① 「月末に受け取ることにした。」という表現で、難易度は一気に増したが、こうした一般的な表現での出題も、歓迎したい。（三重）
 ② 良問である。大切な内容である。（鹿児島）

初出題の
記載中。

- ③ 売掛金を未収金の間違いが多い。(静岡)
 ④ 全受験生が「未収金」と誤答していた。正答率が低かった。(佐賀)
 ⑤ 船荷証券の売り渡しにおける月末受取の仕訳について、未払金で仕訳している生徒が多かった。(佐賀)
 ⑥「残高は月末に受け取ることにした。」未収金と混同し、正答率が低かった。(佐賀)
 ⑦ 月末に受け取ることにした。⇒「未収金」との誤答が多かった。(山形)

g 問題文の時間経過がわかりづらい。(佐賀)

2 特殊仕訳帳

- ① 適切な問題であった。(奈良)
 ② 実務ではほぼ使われていない特殊仕訳帳の今後の出題については、検討の余地があるのではないか。(佐賀)
 ③ 当座預金出納帳の発送費の記入漏れが多かった。(佐賀)

3 本支店・伝票・計算問題

- (1) ① 支店の損益勘定の相手科目の問いは、本支店の決算処理について理解度を問う良問であるが、正答率は低かった。(京都)
 ② よく考えられた良問であった。ただ、支店の損益勘定から期末商品棚卸高を求める問題は、難易度が高すぎるように感じられた。(山口)
 ③ 戸惑う生徒もいましたが、仕訳問題以外で勘定科目を問う良問でした。(和歌山)
 ④ 難易度が上がり、困惑する生徒が多かった。(北海道)
 ⑤ 難易度が高かった。(北海道)
 ⑥ この分野では、新しい形式での資料提示であったため、戸惑う生徒が多く、正答率も低かった。(山形)
 ⑦ 本支店の出題形式がいつもと違い、戸惑っている様子が見られました。(静岡)
 ⑧ 勘定科目の質問はよかったと思う。(静岡)
 ⑨ 資本金と答える誤答が多かった。良問だが誤答が多かった。(静岡)
 ⑩ 計算問題での本支店取引についての出題で、新しい傾向に対応できない生徒が多かった。今後の指導に活かしたい。(三重)
 ⑪ 支店の損益勘定があれば、資料iiiの記述は不要ではないか。(三重・大分)
 ⑫ 本支店は過去問にはなかった。(兵庫)
 ⑬ 新しい傾向の問題で、非常に興味を持った。パターン化してこの問題を解いていた生徒はかなり苦しんだと思う。本支店会計だけでなくいろんな要素を組み入れてよく練られた良問である。ただ、(ア)の勘定科目を答える問題は、この問題の論点から離れているような気がした。(奈良)
 ⑭ 従来の問題より難易度が高いと思われる。(岡山)
 ⑮ いつもと違う問題形式だったので戸惑っている生徒が多数いた。(福岡)
 ⑯ 本支店の計算問題は、これまでの出題形式と大きく異なっていたため、正答率が非常に低かった。難易度が高かったように思える。支店の損益勘定の当期純利益分の勘定を資本金としていた。(佐賀)
 ⑰ (ア)は良問である。損益勘定がどこに通じている

★ 87回～比重を減らす
 3本級で必ずに書いた中長連
 普通仕訳帳、受/貸記帳、支/貸記帳、商品高帳、仕入高帳

かは学ばせる必要がある。損益勘定の出題はあまりなかったため、戸惑い、解答できなかった生徒が多かった。(鹿児島)

- ⑱ 最近の検定試験のパターンとは違ったため戸惑う生徒が多かった。(滋賀)
 ⑲ 考えさせる良問だと思いますが、本店は貸借対照表(財務諸表)支店は損益勘定(勘定口座)という組み合わせでの問い方は望ましいとは思えません。a.の問いはよかったと思いますが、資本金、繰越利益剰余金、当期純利益など誤答が多かったようです。

(大分)

- (2) ① 新傾向の問題に戸惑い不正解が多かった。例年通りの形式を出題してほしい。(栃木)
 ② 伝票の記帳の流れがわかっていたら答えられる問題で適切であった。(奈良)
 (3) ① 勘定記入の一連の流れを問う出題で、良問であった。(青森)

- ② かなり正答率が低く、あえて検定問題にしなくてもよい気がする。(岐阜)
 ③ 見越し・繰り延べの再振替については、あまり深く扱わないので、このような問題は、再振替の理解を生徒に深めさせていく上で授業でも多く扱いたい。(奈良)
 ④ 収益の見越し・繰り延べに関して再振替の誤りが多かった。勘定口座の記入は、正答率が低かった。(佐賀)

- ⑤ 解けない生徒が多かった。(島根)
 ⑥ 良問ではあるが、3(1)aと被っている内容であり、採点か所を配分してもよいのでは?と思われる。難易度を上げるための出題なのかもしれないが。(鹿児島)

4 決算

- ① 売上総利益を問う問題と4の決算問題で売上総利益が採点個所になっているが、適切であったか。(茨城)
 ② バランスのとれた採点個所であった。(岐阜)
 ③ 標準的な問題で、きちんと学習した生徒であれば、問題なく解けた問題である。(奈良)

〔2 級〕 第85回

全般

- ① 適切な難易度である。(北海道)
 ② 適切な問題であった。(香川)
 ③ 良問であった。(群馬・山口)
 ④ 通常と同じ難易度で良かったと思います。(愛知)
 ⑤ 難易度が安定しており良問であった。(熊本)
 ⑥ 奨励級として、基本的な内容を問う良問でした。(鳥取)
 ⑦ 標準的な良問であり、質、量ともに適切である。(京都)
 ⑧ 全般的に基礎・基本を重視した問題であると感じました。(大分)
 ⑨ 例年通りで適当であった。(沖縄)
 ⑩ 計算用紙をつけてもらいたいです。(愛知・愛媛)
 ⑪ 随所に目新しい問題を織り交ぜながらも、標準的な問題も多く出題されており、過去問などを利用した答案練

問題用紙に余白を確保してあるので、よし
 (10年確認済)

一部の教科書に「名債の償還」の
記述がなかったため、(全題は12巻、プリント参照)

習をきちんとしていたら合格のできるレベルの問題であった。(奈良)

- ⑫ 簿記の内容を理解していないと解けないような問題が多くあった。問題の形式に関係なく、問題を解けるように指導していきたいと思う。(愛媛)

1 仕 訳

- ① 全体的に標準的な問題であり、しっかりと学習した生徒であれば、多くの正解を出せたと思う。(奈良)
- ② 仕訳問題で7問中4問が株式会社会計でバランスが悪いように感じた。(富山)
- ③ 社債に関する問題が出題されていなかった。会計の学習につなげる意味でも出題した方がよい。(大阪)
- ④ 仕訳の問題において、社債か減価償却の問題を入れた方がよいと思う。(福井)
- f 問題の難易度としては低いが、配当金の支払いは、大切な要素であるので良い問題であった。(奈良)
- g ① 試用販売が理解できているかを判断するにはよい問題であった。(奈良)
- ② 良問であったが、原価、売価が理解できていない生徒が多く、正答率が低くなってしまった。(熊本)
- ③ 試用販売の一部買取と一部返品について、目先が変わったことについていけず、戸惑い、識別不能になって、不正解の生徒が多かった。(静岡)
- ④ 買取意思表示があったときも、返送されたときもどちらも売価で備忘記録を取り消すことを理解できていない生徒が多かった。原価・売価・返品などをしっかり理解していればできる問題であった。(鹿児島)
- ⑤ 言い回し方が難しかった。仕訳の問題に原価が書かれていたが、戸惑う生徒が多かったので、素直に出題してほしかった。直近の過去問がもう少し仕訳に入るとさらに良かったと思う。(静岡)
- ⑥ 返品分の対象勘定の取り消しができていない答案が散見されました。(大分)
- ⑦ 間違いが多かった。(佐賀)
- ⑧ あまりできていなかった。(福井)

2 特殊仕訳帳

- ① 標準的な問題である。(奈良)

3 本店・伝票・計算問題

- ① 資料の提示方法が従来と変わっていたため、戸惑う生徒が多かった。(三重)
- ② 84回から出題形式が変更されていたが、基本的な知識を活用できるかわかる良問だと思う。その他も基本を押さえた良問であった。(佐賀)
- (1) ① 資料ii付記事項①が「本店・支店ともに未処理であった」という問題にとまどう生徒が多かったです。どちらか一方をする問題が多い中で、両方の処理を求められ、考えさせる問題であったと思いました。(秋田)
- ② 付記事項①本店も未処理というのは実務上あり得ないのではないかと。(岩手)
- ③ 難易度が高かった。(北海道)
- ④ 未達事項が本店支店ともに未記入である。という問題など今までにない問いであったが、基本がしっかりしていればできる良問であったと思います。(秋田)

- ⑤ 計算問題が生徒によく考えさせる問題であったと思います。単にパターン学習では正答につながらないよう配慮された良問だと感じました。(秋田)
- ⑥ 未達事項でなく付記事項という表現に戸惑った生徒が多い。(山形)
- ⑦ ①で本店支店ともに未処理という出題形式について、2級でそこまで問う必要があるのか。(山形)
- ⑧ 本店支店の計算問題の売上総利益が出せない生徒が多かった。(静岡)
- ⑨ 資料が多いので、気づくまで時間がかかっていた。付記事項①本店支店共に未処理は現実的に無いわけではないが、目にする事のない問題であると共に、この付記事項のその他またはb、cの計算への影響が大きすぎる気もする。本店支店共に未処理が適当でない表現と考える。(静岡)
- ⑩ 出題内容改定前は出題されているが、検定問題集等にはないので、実力のない生徒には難しかった。(静岡)
- ⑪ 本店支店会計の付記事項「本店支店とも未処理である」は新しい傾向であるが、現実的にそういうことがあり得るのか疑問である。(三重)
- ⑫ 今回より未達事項が付記事項とされていたが、変更の意図は。(大阪)
- ⑬ 付記事項で目新しい問題が出題されており、他に大きな影響が出ないように配慮されていたが、現金で支払った本店が未処理であったというのは、多少無理があるような気がする。(奈良)
- ⑭ 未達事項が新しい出題のしかただったので、間違いが多かった。正答率が低かった。(佐賀)
- ⑮ 本店支店の形式が変わったら間違いが多かった。本店も支店も未処理の会社というのはどういう会社か、またはどこの会社が教えて頂きたい。本店で現金を支払っているのに、本店側も未処理であったという内容はわかりにくかった。現金を出すのであれば勘定残高(一部)の中にも入れて欲しい。(長崎)
- ⑯ 本店支店の未達の記載方法が変わっていたなという印象だったが良問だった。(熊本)
- ⑰ 付記事項という形式で出題されたのは過去に例がなかったと思いますが、②は通常の未達事項であるにもかかわらず同列で出題されたのに違和感がありました。また、あえて「未処理」という表現を使ったのでしょうか。(大分)
- ⑱ 例年の資料と形式が違っていたため、戸惑い、できていない生徒が多かった。例年と比較すると良く考えなければ解けない問題である。本店支店のことを理解していないと解けない問題である。付記事項の①の仕訳が本店・支店ともに仕訳することに慣れておらず、できていない生徒が多かった。(鹿児島)
- ⑲ 付記事項①の仕訳ができていなかった。本店支店での未処理については初めての内容だったので理解するまでに時間がかかった。(福井)
- ⑳ 前回に続いて、これまでのパターンとは違ったため戸惑う生徒もいたが、本店支店会計の理解度を問う問題としては良問であった。(滋賀)
- ㉑ 「付記事項」や「決算整理事項」など教科書等にも示されていない表現や項目を含めた出題は生徒が戸惑うので差し控えてほしい。(和歌山)

② 本支店会計の問題で、今年度から「未達事項」を「資料」「付記事項」と言葉で感ずるような問題の指示となっているが、奨励級に必要なのか。また今後もこのような言葉で戸惑わせる問題を2級・3級には避けてほしい。(鳥取)

③ 付記事項①「本支店とも未処理であった」に対応できない生徒が多かった。iii決算整理事項の期末商品棚卸高にも対応できない生徒が多かった。(島根)

④ 付記事項の①の「本支店とも未処理であった」という問題をあまりこなせていなかったため、つまづいた生徒が多かったのではないかと。(徳島)

(2)① 標準的な問題であり、妥当であった。(奈良)

② 「小切手を受け取った」との取引について、借方を当座預金として処理したとしても、採点に全く影響がなかった。(富山)

(3)① 新傾向の問題に戸惑い不正解が多かった。基本的な問題を検討してほしい。(栃木)

② 出題傾向を安定させてほしい。(熊本)

③ よく出題される問題であり、しっかりと答案練習をしている生徒であれば、きちんと答えられた問題である。(奈良)

④ オーソドックスな問題ではあったが、不正解が多かった。(静岡)

⑤ 資料を読み取れず、仕入高の誤答が多かった。

(鹿児島)

⑥ 売上総利益＝売上原価－売上純利益、売上原価と売上高から当期純利益を求められる、次期繰越が期末商品であること、資本金の損益の全額が当期純利益であることを理解している生徒が多少いた。(福井)

4 決算

① 全体的には標準的な問題であり、適切であった。(奈良)

② 貸倒見積額2%、減価償却費20%で似ていたのに、勘違いする答案もあった。(佐賀)

③ 付記事項と決算整理事項の仕訳と基礎的なことを理解していれば解ける問題であった。全体的にも基礎力を問う良問である。(鹿児島)

④ 精算表は出さないのか？あっても良いのではないかと。

今夜は、精算表も出題する (島根)

(2級の範囲は3級の範囲も含むため)

【会計】第84回

全 般

① 考えさせる問題もあり良問であった。(青森・岩手)

② 全体的に模擬問題を解いていけばできるレベルであった。(青森)

③ 全体的に妥当な問題であった。(宮城・山形)

④ 良問であった。(茨城・栃木・群馬・富山・福井)

⑤ 標準的な良い問題である。全体的にバランスがとれており、しっかりと考えなければいけない問が含まれていて良問であった。適切な出題内容である。(京都)

⑥ 全体的には前回より易しかったと思う。(兵庫)

⑦ よく練られた問題であり、どの問題も学習内容をきちんと理解していれば答えられる問題であった。(奈良)

⑧ 適切な問題であった。(香川)

⑨ 基礎・基本を問う良問であった。(愛媛)

⑩ 例年よりかなり易しかった。第83回が難しく、難易度に差があると不公平感が生じるため、難易度のバランスを考慮してほしい。(福岡)

⑪ 今回は基本的な内容を確認する問題で良問。83回検定の難易度が極端に高く、差がありすぎる。受験時期によって差がありすぎる。受験時期によって差が出ないように難易度の平均化をはかって欲しい。(長崎)

⑫ 会計の知識を問う良問であった。指導力を磨く機会にもなると感じた。(熊本)

⑬ 生産高比例法・定額法・定率法と償却の問題が多かった。(和歌山)

⑭ 会計の解答用紙の構成を採点の間違いを減らすため、また、受験生が解答しやすくするために、次のように変更して欲しい。表面の左側に1(仕訳)、右側に2・3、裏面に4(決算)をおさめる。(三重)

1 仕 訳

① やや難易度が低かった。(北海道)

② 標準的な問題であり、きちんと学習していれば答えられる問題である。(奈良)

③ 基本的な内容から応用的な力を図る上で良問である。

(鹿児島)

a ① 有価証券利息を問う良い問題である。(滋賀)

b ① 審査基準にミスがありました。(静岡)

c ① 3行目の「支払請求」は、教科書(実教「新簿記」p257の例7③)では「償還請求」と表記しています。本問では「支払請求」としている理由をお答えください。(神奈川)

② 支払利息¥1,000を訂正してしまう間違いが多かった。(静岡)

2 計算問題

① 標準的な問題である。(北海道)

② 計算する際に資料とするデータの量が多く、しっかり理解していないと解けない問題だと感じた。(青森)

(1)① 標準的な問題であり、妥当であった。(奈良)

② 分析は素晴らしく考えさせる良問であった。(滋賀)

③ 東西株式会社の商品回転率から逆算して期末商品を計算しなければならないため、間違いが多かった。

(佐賀)

④ 2つの貸借対照表を比較する問題で、東西、南北を会社名としてあったが、比較する際にまぎらわしい。例えば、東京、大阪等ははっきりと違った地名等をつかってほしい。(佐賀)

⑤ 売上高成長率を求めさせる良い問題であった。

(滋賀)

⑥ 売上高増収率(成長率)については近年企業競争間の激しい現代において生徒に学ばせるには良問であると思われる。(鹿児島)

⑦ 売上成長率の計算問題の誤答が多い。(鹿児島)

⑧ 前回(1月)の検定と比べて簡単すぎる。難易度に差がありすぎる。意図は分かるが、採点箇所がセットになっていると、せっかく数値を計算できても、選択で誤り4点失うのは大きい。(和歌山)

⑨ 読解力がなく、計算まで考えられていない生徒が多い。期首の売上債権については、新しい記述式で

生徒に判断しづらいが、売上債権の中身を知る上では良い。(鹿児島)

⑩ 売上債権の問題が難しく感じられた。(沖縄)

(2)① 基本的な問題であった。(奈良)

(3)① 非支配株主持分の金額が出せない生徒が多かった。
(静岡・佐賀・鹿児島)

② これまでに無い出題の仕方です戸惑った生徒が多かった。(静岡)

③ のれんに関する問題にできなかったのはどうなのか。
(岐阜)

④ 連結に関する新しい傾向の問題があり、連結に関する理解がしっかりとされていないと解けない問題であった。(三重)

⑤ 計算問題の非支配株主持分の問題においてすべて文章で記載されているのは問題集になく、良問であった。(三重)

⑥ 連結会計の出題が深くなってきており、しっかりとした対応が必要と感じた。(滋賀)

⑦ 連結第1年度末の非支配株主持分の問いは、連結処理の仕訳が理解できているか問う良問であるが、戸惑う生徒が多く正答率は低かった。(京都)

⑧ 連結の問題は難しくなったが、これからの出題はこのレベルになるのか。(兵庫)

⑨ 純資産の流れと連結会計をつなげた問題で、非常に興味深く面白い問題であった。(奈良)

⑩ 回によってセットで採点したりしなかったりする。難易度の調整かもしれないが、可否に大きく影響していると思う。資料が見づらい。生徒もまだ見慣れない問題なので、配慮してほしい。(和歌山)

⑪ 連結会計については今回までの内容に留め、進んだ学習については会計実務で出題してほしい。
(岡山)

⑫ 難しい計算問題で正答率が低かった。過去にはない出題傾向だったため、戸惑った生徒が多かった。連結会計の逆算問題については、指導方法など周知しなければならないため、間違いが多かった。(佐賀)

⑬ 支配獲得時の非支配株主持分に、純利益と配当金の配分がからみ難問であったが、審査基準が考慮してありよかった。(長崎)

⑭ 検定の出題範囲であるが、ほとんどの出版社の問題集でも取り扱われていない内容の出題であったため、戸惑う生徒が多く正解率が低くなってしまった。
(熊本)

⑮ 今までは相互間について記述がなかったり、表現が違っていたので今後も共通表現にしていってほしい。連結会計を苦手とする者が目立った。(鹿児島)

3 用語

① 標準的な問題である。(北海道)

② 標準的な問題であり、妥当であった。(奈良)

b① 文中の「この費用は損益計算書に(営業外費用)として処理する。」と「処理する。」の箇所を「表示する」または「記載する」としなかった理由をお答えください。処理と表示はまったく意味が異なります。(神奈川)

② 自己株式取得時に諸費用に関することは、教科書に掲載されているが、仕訳の例としては挙げられておら

ず、説明文のみとなっているので、このようなそこまですべて重要でない細かな箇所の出題は控えてほしい。

(鳥取)

③ 自己株式取得のための費用を、取得原価に含めない処理のウ・エの間違いが多かった。(佐賀)

④ 「株主資本の末尾に控除する形式で表示」は、形式的には判断できるが、必ずしも、表記問題で生徒に理解が必要か?と思われる。(鹿児島)

4 決算

① 決算の基本知識を問う良問であった。(北海道)

② 標準的な問題であり、過去問を中心にきちんと答案練習を繰り返していた生徒は解答できた。(奈良)

③ 答案を見開きの方がいいと思う。(福岡)

④ その他有価証券の評価ができていなかった。(鹿児島)

付記事項① 取引全体が未記帳であったのか、割引の部分のみが未記帳であったのかのかわかりにくい。

(山口)

② 前回(第83回)と比べて平易な感じがしました。今回受験した生徒の大半が前回の検定で不合格になり再受験したことを考えると、受験回によって可否に差が生じることは望ましいことではないと感じました。(大分)

(2)① 決算の採点箇所が当期純利益ではない方が良いのではないかと。前回も要望しました。(青森)

〔会 計〕 第85回

全 般

① 連結の問題、損益計算書・株主資本等計算書の問題は学習内容を理解した上で、思考力が必要であり、よく練られていたと感じました。

本来財務分析で出題されていた株主資本変動計算書の意味をしっかりと理解していた生徒には特に問題はなかったと思いますが、単なるパターン学習で財務分析問題に取り組んでいた生徒は手の付けられない問題でした。同様に連結の問題にも同じ事が言えると思います。いずれにせよ今回の出題は生徒の力量を測る上で非常に良い問題だと思いました。(秋田)

② 全体的に考えさせる良問であり適切な問題であった。
(青森・富山・香川)

③ 全般的に基礎・基本を重視した問題であると感じました。(大分)

④ 6月検定に比べ、達成感を受験生にもたらす良問だったと感じます。(埼玉)

⑤ 全体的に生徒の理解度を問う適切な問題であったと思われる。(山口)

⑥ 結果的に難易度は変わらなくても、新形式が多数出題されると生徒は戸惑い、学習の成果が出づらいので考慮してもらいたい。(山形)

⑦ 新傾向の出題は、大問に1つにつき、1カ所にして欲しかった。新傾向の出題を1度に複数出題することは適当ではない。(栃木)

⑧ 新傾向の問題を出す場合、できるだけ少ない配点からはじめてもらいたい。(神奈川)

会計原則は「計上する」教科書「処理する、計上する」
よつて「処理する」とした。

- ⑨ 学習内容をしっかり理解しているか把握するうえでよい問題だった。全体的に株主資本の部に関する問題の出題が多かった。バランス良く出題してほしい。(静岡)
- ⑩ 日商簿記の範囲改訂の余波か、会計の問題でも変化が見受けられる。今まで勉強してきた内容+新しい部分で問題を作成しているが、バランスが取れるようにして欲しい。(静岡)
- ⑪ 答案用紙について、紙面の都合もあると思うが4番(1)(2)が見開きにならないか。(京都)
- ⑫ やや難しい問題も含まれていたが、全体としては標準的な良い問題である。適切な出題内容である。(京都)
- ⑬ 大問4に初めての形式で出題され、生徒たちも戸惑いながら解答した上で、大問2が大変ボリュームのある内容になっており、時間的に厳しかった。併せて連結においても初めて支配獲得日以外が問われ、初めてのケースが多い内容であったため、6月と比較すると難易度が高かった。(熊本)
- ⑭ 第84回と比較すると難易度が高かった。(栃木)
- ⑮ 第84回と比較し、第85回は難易度が上がった感を受けた。検討され良問だった。(島根)
- ⑯ 84回と85回の難易度の差がありすぎるので、もう少し平均を保ってほしい。前年度も受験生の多い1月検定の難易度がかなり高かった。(和歌山)
- ⑰ 2・4ともに非常に良い問題であったように思います。しかし、目新しい問題が複数出題されると、本来合格すべき生徒が不合格となっています。頑張っている生徒が報われるよう、新しい内容を出題した場合は、他の問題については過去に出題されたような形式にしたり、配点を調整していただきたい。(滋賀)
- ⑱ 検定の問題の形式がその都度変化しており、出題範囲が広がってきているように感じた。教師側も継続して学習し、幅広く指導していないと生徒にとっては難しい問題になってきていると感じた。(熊本)
- ⑲ 大問4において損益計算書、貸借対照表以外の作成は改訂後初めてであり、それ以前においても記憶にない。確かに形式化した問いばかりだと、検定に向けた学習も形式化し理解が深まらないためよかった。大問2の(2)を除く他の大問と付記事項・決算整理事項の難易度が低かったためバランスが取れていたと思うが、例年に比較して本生徒の合格者は少なく、出題に大いに戸惑ったと推される答案が目立った。(鹿児島)

1 仕 訳

- ① 例年並みの難易度。良問である。(北海道)
- ② 基本的な仕訳であり、良問であった。(奈良)
- ③ 模擬問題集を解いておけばすべて解答できるパターン化した問題だけでなく、考えさせる仕訳問題も含まれており、良問であった。(佐賀)
- a ① 自己株式の出題はこれまで少なかったが取引内容が明瞭であり妥当な問題であった。(鹿児島)
- c ① 3行目の「支払請求」は、教科書(実教「新簿記」p257の例7③)では、「償還請求」と表記しています。本問では「支払請求」としている理由をお答えください。(神奈川)
- ② 期日以後の利息を不渡手形勘定に含めず、支払利息勘定で処理している誤答が目立ちました。(大分)
- d ① 正答率は低かったが良問であった。(熊本)

- ② 貸借対照表の記載が実務とはかけ離れている財務状態であり、ふさわしくない。大問2の計算問題で出題すべきである。(栃木)
- ③ 繰越商品を商品と答える生徒が多かった。(福井)
- ④ 問題にT字型の貸借対照表があり、借方に「商品」となっているため、そのまま解答に、商品と書いている生徒が多かった。勘定科目一覧には、ないわけで不注意であるが、この問題が正解であれば、合格できていた生徒が多かったのが残念である。(三重)
- ⑤ 基本的処理はできているが、「繰越商品」を勘定科目指定にもかかわらず、「商品」と間違えている受験生が多かった。(鳥取)
- ⑥ 勘定科目に示してあるにもかかわらず、「商品」と答える生徒が多かった。(山口)
- ⑦ 勘定科目の候補が与えられているにもかかわらず、商品勘定を用いた仕訳が散見されました。(大分)
- e ① 償却減価法の考え方をきちんと理解していない生徒がいた。(佐賀)
- g ① 2行目の第2文の「なお」という接続詞は、単なる言い添えに過ぎないため、第2文によって限定するためには、「なお」でなく、「この決議にともない」とか「この配当決議により」にした方がより明確になります。接続詞で起こすなら「したがって」でもよいと思います。(神奈川)
- ② 「その他資本剰余金を同額増額させたうえで」と親切丁寧に説明されていて、普段間違える受験生もよく解けていて、良問である。(鳥取)
- ③ 未払配当金を繰越利益剰余金と答える生徒が多かった。(福井)
- ④ 表示科目と勘定科目を間違う解答が多かったが、良問だった。(熊本)
- ⑤ 「その他資本剰余金を同額増額させたうえで」とありますが、何のために(債権者保護の手続き)それをしたのか示さなくてもよかったのでしょうか。(大分)
- ⑥ 資本金の減少について「その他資本剰余金」を経由して、配当金と資本準備金に計上する処理は、理解が必要な箇所であり良問である。(鹿児島)

2 計算問題

- ① 計算する際に資料とデータの量が多く、しっかり理解していないと解けない問題だと感じた。(青森)
- ② 解答自体はこれまで同様であるが、出題形式が異なることで戸惑う生徒が多かった。(青森)
- ③ たくさんのことをやらせ過ぎな問題で、生徒は混乱する。(栃木)
- ④ 計算問題については、正解へのルートをも1本にせず、他方からも正解にたどり着ける工夫がなされていて良かったです。試験委員の皆様の労力は多大ものがあると思いますが、今後も達成度試験としてふさわしい出題をお願いいたします。(埼玉)
- ⑤ 年々難しい問題が多い傾向。(福井)
- ⑥ 生徒に考えさせる非常に良い問題であった。(滋賀)
- ⑦ 連結に関する問題を複数出題するのではなく、他の分野も幅広く出題したほうが受験生の全般的な学習状況を計ることができ、また努力に報いることができる。(鹿児島)

「比率を求め、分析する」ということが作問の意図である(比率→分析)はよく分かってほしい。また、比率の中(重要なもの)はセリ4点か5点かという

「流動比率と固定比率」
「総資本利益率」
「売上高利益率」
「営業利益率」

- (1) ① 「比率を理解し、それを応用する力を問う問題」としての出題であることは、十分理解しておりますが、問題の難易度等バランスから4点配点を各2点に分けても良いのではないかという意見が複数出されました。(宮城)
- ② 配点に関して、セットで4点とせず、個別に2点ずつにしていきたい。(秋田)
- ③ ウエ、オカ、ケコが1組の採点基準となるのは理解できるが、アイ、キクを1組とする必要性が感じられない。1問2点の配点で生徒が点数を取りやすい配点を検討していただきたい。(岩手)
- ④ 採点基準全部が2つとも合っている場合に正答とするとなっているが、一部は記号ごとの採点としても良いのではないかと。(栃木)
- ⑤ アとイ、キとクが2つともあっている場合に正答とする採点基準に疑問を感じる。両方計算させるのであれば、採点箇所を1つではなく2つにすればよいと思う。(静岡)
- ⑥ アとイ、キとクは異なる視点なので、セットの得点である必要性を感じない。2点ずつにしていきたい。(神奈川)
- ⑦ 2問完答で4点は厳しい。関連のない問題もあったので2点ずつに分けたほうがよい。(大阪)
- ⑧ 採点基準について、ア(流動比率)とイ(当座比率)が完全解答での配点となっているが、別の指標であるので別採点でお願いしたい。(京都)
- ⑨ ア、イ、キ、クについては2点配点でもいいのではないかと。(岡山)
- ⑩ アイ、キクの完答は採点基準としては厳しいのではないかと。一方の計算ミスで4点減点は大きい。(和歌山)
- ⑪ 採点がセットになっているので、独立して2点ずつにしていきたい。計算式を正しく使い解答したのであるから、1つずつ評価するのが妥当である。特に アとイ、キとク(長崎)
- ⑫ 理解できているか確認するために2ヵ所とも正解で4点の配点であると思うが、難易度が高いため、今後は2点ずつの配点を検討しても良いのではないかと。(熊本)
- ⑬ アとイ、キとクの採点方法について、それぞれ異なる分析の計算をさせた上で両方正解でなければ点数にならないというのは、どのような意図があるのか説明していただきたい。(宮崎)
- ⑭ 会社名が「A」「B」であったため、「A」「B」で記入している受験者が多くみられた。社名が連番で考えられるものは不適切ではないかと。また、3回連続で2社比較の問題となっていて、変化がない。(栃木)
- ⑮ 資料が多く見づらい。(神奈川)
- ⑯ 教科書では、財務諸表分析の定義を「財務諸表に示された金額を分析・比較し・・・」とあります。近年の全商問題は、金額が()になっていることが多く、教科書の財務分析の定義に反しているのではないのでしょうか。(神奈川)
- ⑰ 比率等の結果を問うだけでなく、問題文を読むことで、企業の良し悪しがわかるような文章での出題が良いのではないかと。(京都)
- ⑱ 財務諸表から分析する問題は、年々充実し非常に興味深い。学習した内容を応用し、思考力を高めるためには本当に良い問題である。(奈良)
- ⑲ 問題文の文章表現が難しく感じられ、読解力に欠ける傾向が見られる。我々指導者の指導の工夫も求められているように感じる。(鳥取)
- ⑳ 84回と同じような問題が出題された。計算ミスも多かった。(佐賀)
- ㉑ これまで計算に関しては3つの分野から出題であったが、連結に関する問題が2題出題されていた。2つの分野に絞った意図を説明していただきたい。(宮崎)
- ㉒ 2つ正解で点数になる問題は減らしてもらいたい。5つは多いのではないかと。(鹿児島)
- (2) ① 連結貸借対照表の、のれん、非支配株主持分は、初出題傾向。やや難易度が高いが良問である。(北海道)
- ② 連結の出題について、今後の見通しに関する質問も多く出されました。(宮城)
- ③ 連結財務諸表問題は表を読み取る力を見る良問であった。しかし、大問1の仕訳や大問4の(2)の今までの形式にはない、株主資本等変動計算書など、例年より難易度が高い問題が多いと感じた。合格率が例年と比べ低くなるようであれば、受験生が不利にならないよう、問題の難易度に大きな差が出ないようにしてもらいたい。(秋田)
- ④ 新形式の出題に戸惑った生徒が多かった。そのうえ、連結が2問の出題だったため誤答が多かった。(山形)
- ⑤ 「のれん」が正解できなければ「非支配株主持分」も正解できない。解答手順に重複のあるものを採点基準とするのは不適切である。(栃木)
- ⑥ 「連結1年度末の非支配株主持分」については2回連続の出題であるので適当ではない。(栃木)
- ⑦ 連結の問題(のれんの金額、非支配株主持分の金額)2題は比重が多いのではないかと。(新潟)
- ⑧ 連結の問題がやや難しいと思った。非支配株主持分の金額500(千円)があまりできていなかったように思う。(福井)
- ⑨ 一歩踏み込んだ良問だったが、非支配株主持分の計算が難しくなっており、問題集にも出題されていなかったため、解答に苦しんだ生徒が多かった。資料iv vを考慮する間なら、S社の29/3/31のBSは要らないと考えます。(静岡)
- ⑩ 連結会計の出題が深くなってきており、しっかりと対応が必要と感じた。(滋賀)
- ⑪ 連結の問いが2題出題されていたが、今後は拡大の方向を考えているか教えて欲しい。(京都)
- ⑫ 連結会計を、より深めた問題であった。新鮮な問題で良問だったが、今後連結会計について、学習を深めていかなければならないと感じた。(奈良)
- ⑬ 解答できた受験生が少なく、正解率も大問の中で一番低かった。連結会計の出題が定番となってきた印象がある。(鳥取)
- ⑭ 資料vi, viiについては、今後、金額が入ったもの出題はあるのか。(岡山)

・ 非支配株主の、再度理解しているかと考え、連続出題した。
 「子会社の利益の割合」
 「子会社の負債の修正」もあり得る
 今後も出題可能あり

⑮ 計算問題の正解率が低かった。連結会計の意味を正しく理解していないと解けない問題であった。

(愛媛)

⑯ 連結決算において「のれん」の金額、「非支配株主持分の金額」を正しく求めることができない。連結B/Sについて、苦手としている生徒が多かったため、正答者が少なかった。(佐賀)

⑰ 日商簿記検定2級でも連結会計の出題が始まり、全商での動向が気になっていたが、連結修正仕訳をきちんと理解したうえで解答を算出させる良問であった。また、配点も2問(8点)と適切であった。

(佐賀)

⑱ 連結B/Sに計上する「のれん」「非支配株主持分」を解けていない生徒が多かった。本校では実教出版問題集を使用しており、指導不足となってしまった。

(長崎)

⑲ 連結会計に関する問題が回を追うごとに質・量ともに大きくなっていると思います。将来的にはiii~viiに関する内容も出題されるのか心配です。教科書に記載がありますので、出題されても仕方のないことですが、現状の授業の進度等考えると負担が大きいです。(大分)

⑳ のれんの金額は、算出できたが、連結第1年度末に償却できていないので、点数が取れていない生徒が多かった。

かなり、日商2級に近い問題で、教えるための問題集も少なく、苦戦するところである。

S社の貸借対照表が2つあり、どちらを計算に使用するか判断できない生徒が多かった。(鹿児島)

㉑ 連結財務諸表においては、近年の会計業務においては必要不可欠であり、事前の説明(全商の報告等)で準備しておくものであったと思う。多くの生徒が減点になっていたが、全商の問題のマンネリ化や、1歩ステージを上げる教師側の指導を必要とする点でも良問であると思う。(また、日商問題ともリンクしている)(鹿児島)

3 用語問題

① 難易度はやや高いが良問である。(北海道)

② 一般的な会計知識を問う良い問題であった。(奈良)

③ 模擬問題集によく出題されている用語が2問、そうではない問題が2問出題であったが、後者2問も教科書にはしっかりと説明がされている。よく考えて作問されていた。(佐賀)

b① 問題文は「財務諸表分析の方法には」で始まり、「財務諸表の金額によって財務比率を求めて分析する方法」と「財務諸表の金額を用いて分析する方法」があると述べています波線の部分に注目して読むと、大きな相違がないように思えます。これは、第2文の中に「実数」の意味である「そのもの」を省いたためです。これは、第2文の中に「実数」の意味である「そのもの」を入れると「財務諸表の金額そのものを用いて分析する方法」となり、2つの方法の違いがはっきりします。「そのもの」を省略した理由をお答えください。(神奈川)

② 財務分析に関して、「比率法」や「実数法」という語句を問う問題で、問われている語句の重要性に疑問

を感じる。できれば、重要語句についての出題をお願いしたい。(鳥取)

③ 定数法については良問である。複式簿記は実数分析が、実社会の企業会計においても求められている。(比率や利益率についても大切であるが...) (鹿児島)

4 決算

① 新傾向だが従来より良問である。(北海道)

② 株主資本変動計算書の作成が新傾向であった。変動計算書の内容を理解できているのか確認できる良い問題であった。(青森)

③ 株主資本変動計算書の作成など応用力を問う問題に対しても工夫が見られ、良問であった(宮城)

④ 生徒に考えさせる非常に良い問題であった。(滋賀)

⑤ これまで貸借対照表・損益計算書だけではない、新しい傾向の出題であった。(青森)

⑥ 毎回出題されているP/L、B/Sのパターン問題ではなく、S/Sが出題され、なおかつB/Sの負債合計額を答えさせる等バランスの良い問題であった。初めての出題ということから配点も2カ所(8点)と配慮されていたと思う。全体的に1級会計はこれまでのパターン化された問題を踏襲するだけでなく考えさせる問題作問がされていてよかったと思う。(佐賀)

⑦ これまでにない株主資本等変動計算書の作成が出題されたが、日商簿記に比べると配慮された作成しやすい問題であった。今後は、日商簿記で取り入れられている内容を含め、純資産の変動について具体的に理解させる必要があると感じた。(鹿児島)

⑧ 貸借対照表で準備していましたが、株主資本等変動計算書で出題されると思いませんでした。大問2の対策で十分に理解していた生徒は対応できましたが、その他のあいまいにしか覚えていなかった生徒は対応できず苦戦していました。(秋田)

⑨ 新傾向としての難易度の調整とは感じたが、貸借対照表と損益計算書を出題するという事になっていたのではないかと。(栃木)

⑩ B/Sを出題しない意図が全く分からない。限られた授業の中で基本的な指導を行ってきたが、検定試験で株主資本等変動計算書を出題することは、大きな問題ではないだろうか。近年、日商簿記検定が合格できない状況で、全商検定は、合格できる問題を出題すべきである。(福井)

⑪ 傾向が変更になり生徒が戸惑った。(愛知)

⑫ 新傾向の問題であり、1月は年間のまとめとして受験しているので、できれば6月の検定で新傾向は出題していただきたい。(兵庫)

⑬ 新しい出題でパターン化されずに良い。財務諸表を理解していれば、難易度が低い。(三重)

⑭ 3つの性質は違うが、2つのほうがよい。(鹿児島)

(1)① 新傾向の内容となっているので、付記事項および決算整理事項aの原価よりも正味売却額の高い問題の出題は、厳しいのではないかと。(栃木)

(2)① 株主資本等変動計算書は難しくはないものの、新形式に動揺した生徒が多かった。(山形)

② 株主資本等変動計算書は、大問の計算問題として出題して欲しかった。(栃木)

③ 株主資本等変動計算書の表記を1段にしていだけると見やすかった。(栃木)

最初出題はあったが、
複式簿記で解答が正し
出題されたのは鹿児島のみ

株主資本等変動計算書は、すべての教科書に
記載がある。配点箇所は各県に

- ④ 株主資本等変動計算書が2段になっていることが、生徒にとって分かりづらかった。(群馬)
- ⑤ スペースの関係もあると思うが、株主資本等変動計算書を2段に分けるのはどうか。(和歌山)
- ⑥ 株主資本等変動計算書を1段で納めようとする解答欄が小さくなるのはわかりますが、2段に分けて書くということは実務的にあり得るのか。(三重)
- ⑦ 解答用紙で「株主資本等変動計算書」が1行に収まらず、2行になっているが、解く時に計算記入しにくいので1行にすべき。(福岡)
- ⑧ 特に貸借対照表の作成、しくみを理解しないと株主資本等変動計算書を完成させることは難しかったと思う。なかなか対応できなかった。解答用紙を上下2段にする必要はないのではないか。(長崎)
- ⑨ これまで貸借対照表と損益計算書の問題だったが、今回株主資本等変動計算書が出題され、過去問題や模擬問題にこのような形での出題がなかったため、生徒は戸惑ったようだ。株主資本等変動計算書を出題するのであれば、2段にならないような出題の仕方がよいのではないだろうか。2段になり、見づらく、解きにくい。(鹿児島)
- ⑩ 4番に株主資本等変動計算書が出ることは良いと思うが、今回の当期純利益と評価差額を書くだけのものでは2番に取り入れた方が良く感じる。4の問題が1番メインと考えたい所だが今回は2番の方がメインになっているように感じてします。(4番の付記事項と決算整理仕訳も2番に比重を置きすぎて1級レベルだと考えればシンプルすぎる?)
(山梨)
- ⑪ 株主資本等変動計算書の採点箇所は2つですが、このうち当期純利益はP/Lの方で採点しています。したがって、株主資本等変動計算書における採点箇所は実質的に1箇所であると言ってよいと思います。株主資本等変動計算書は、会社法の改正により純資産の部の係数変動の自由度が増したことによって設けられた財務諸表ですから、B/Sの補完的な役割を負うに過ぎません。そのような位置づけにある株主資本等変動計算書をB/Sの代替として出題した意図をお答えください。(神奈川)
- ⑫ 決算整理事項d. 元帳勘定残高の¥9,000,000 全額が期首から所有している建物の取得原価であるという保証はどこにあるのでしょうか。3級のように建物の取得原価を示さない理由をお答えください。(神奈川)
- ⑬ 形式が変わった。今までは貸借対照表と損益計算書が出題されていたが、株主資本等変動計算書出題されて、戸惑った生徒が多かった。模擬問題集にも出題がほとんど無く、解答に苦しんだ。(静岡)
- ⑭ 株主資本等変動計算書の作成の出題について、難易度は高くないが戸惑う生徒が多かった。(京都)
- ⑮ 株主資本等変動計算書について、①問題を見た瞬間に戸惑った受験生が多かった。サンプル問題の提示などあってもよかったのでは。(大阪)
- ⑯ これまでの出題形式と異なっていたが、今回のような場合にサンプル問題等の情報を事前に公開することは可能か。(宮崎)
- ⑰ 株主資本等変動計算書の出題は良く、株主資本合計(当期首)が印刷してあり受験への配慮が感じられました。(埼玉)
- ⑱ 従来と形式が変わったが良問だった。(福井)
- ⑲ 決算処理の問題が新しい出題(株主資本等変動計算書)でしたが、良いと思った。(静岡)
- ⑳ 株主資本等変動計算書が出題されるのは、初めてだが良いと思う。戸惑った生徒がいたかもしれないが、表の記入の仕方や見方がわかっている生徒にとっては、対応できた。(三重)
- ㉑ 株主資本等変動計算書が、恐らく初めて出題されたが、損益勘定への記入する問題より、財務諸表のひとつである株主資本等変動計算書が出題された方が良かった。特性上、損益計算書に配点が偏るが、大きな問題ではないと思う。(奈良)
- ㉒ 出題形式が変わっていて、戸惑った生徒が多かった。ただ、落ち着いてよく読めば、ヒントもたくさんあって、いつもより簡単のように感じられる。(山口)
- ㉓ 株主資本等変動計算書の出題にとまどった生徒もいるが少しずつ新しい傾向を取り入れる観点からは良好であると思われる。(熊本)
- ㉔ 株主資本等変動計算書の出題は新しいチャレンジだったと思います。今後もこのような変化を期待します。
(大分)
- ㉕ 株主資本等変動計算書は記入するだけだが、全体的にできていなかった。しかし、問題としてはヒントもあり、良問だった。
大問4の中で株主資本等変動計算書を解かせるのは良いと思う。会計は株主資本を考えさせることが重要だと思う。(鹿児島)
- ㉖ 損益計算書を作成しなくても当期純利益が「株主資本等変動計算書」を作成する過程から求めることができる問題であり、とても工夫されていて良問である。
(鳥取)
- ㉗ 株主資本等変動計算書については配慮が見られるが、今後の出題の可能性を教えてください。(岡山)
- ㉘ 株主資本等変動計算書の作成について出題されたことは財務会計の意味を進化させる上では賛同できる。しかし、全商簿記検定1級の会計として、学習内容の範囲を考えた場合には疑問が生じるのではないだろうか。
なぜなら、学習指導要領P237第12章財務会計Ⅰの「3 内容と取り扱い」では、財務諸表の作成と報告式の貸借対照表と損益計算書及び連結財務諸表の作成方法を扱うことを要求している。また、学習指導要領P57第12節財務会計Ⅰの(2)貸借対照表「ウ 純資産」には、「～純資産の意味、表示及び株主資本等変動計算書について理解させるとともに、純資産について、具体的な例を用いて会計処理を習得させる。」と書かれており、株主資本等変動計算書の作成までは明記されていない。
さらに、財務会計Ⅱまで範囲を広げてみると、学習指導要領P237～238第13章財務会計Ⅱには計算書類の中に含まれてしまったせいか株主資本等変動計算書の語彙の記載がなかった。しかし、学習指導要領P61第13節財務会計Ⅱの「イ 負債・純資産会計」においてその学習

内容として、「株主資本等変動計算書の基礎的な作成方法を習得させる。」と要求している。

以上のことから、今回の出題された内容は、財務会計Ⅰの教科書の学習範囲及び内容を超越してしまったものと考えられるのではないだろうか。それとも、全商簿記検定1級の出題内容として、学習指導要領及び教科書に準拠した問題を作成するといった場合の教科書とは、財務会計Ⅰ及び財務会計Ⅱの教科書を意味するものかお伺いしたい。(茨城)

- ②⑨ 問題2で株主資本等変動計算書を教えていたので解答できたと思うが、問題4で初めて出題されたので多少のおどろきはあった。(鹿児島)
- ③⑩ 前回から日商2級を意識した問題が多くなり、細かなミスが目立つ解答が多かった。大問4で株主資本等変動計算書が出題された。落ち着いて解けば良かったが、慌てたのか、空欄が多かった。指導方法を含め、見直しが必要に感じた。(鹿児島)
- ③⑪ 「「その他有価証券評価差額金」については、教科書では貸借対照表の純資産の部評価換算差額等に記載するとはあるが、株主資本等変動計算書に記載される形式は掲載されていないので、出題は適切ではない。」(栃木)
- ③⑫ 今回の問題に、その他有価証券評価差額金まで必要でしょうか。(和歌山)
- ③⑬ 株主資本等変動計算書については、出題されたことには何の異論もない。必要性や過去問のマンネリの脱却から出題された面もわかる。しかし、解答用紙の「評価・差額金」などの欄については納得できない。解答の方法はわかるし、受験生も何とか記入していたが、教科書「平成28年～29年」の実教や東法等の教科書にはすべて記載・説明が一切ない。問題集も同等である。理論的な説明や授業ができずその時代の流れや企業会計に合わせる風潮があり、事前の準備や説明もなくいきなり出題されるのは生徒も可哀想である。また、全商協会の検定のスタンスや出問者への見識も問われるのではないかと改善・改良をお願いしたい。(鹿児島)
- ③⑭ 当期純利益による繰越利益剰余金変動額は逆算して導くこともできるが、決算の問題としてこの出題はふさわしくないのではないかと。(栃木)
- ③⑮ 株主資本等変動計算書は予想外であった。困る。(福井)
- ③⑯ 採点箇所が2カ所は少なかった。(大阪)
- ③⑰ 株主資本等変動計算書当期末残高17,938,000が書かれているのは、過剰な配慮があったと思います。(島根)
- ③⑱ 正答率が低かった。(佐賀)
- ③⑲ 付記事項は1つであり、決算整理事項も難易度は易しい問題であった。ただ「株主資本等変動計算書」作成が出題され、戸惑っている受験生が多かった。(鳥取)
- ③⑳ 株主資本等変動計算書のボリュームに驚いて、ひっかかる生徒が多かった。(沖縄)
- (3)① 問題に「資産の部」に記載する～とあるため容易に求められるが、初見のため見落とし苦労した。(山形)
- ② 解答に必要な金額がほぼ全て解答用紙・問題文に記載されているので、解答させる意味が分からない。(和歌山)
- ③ B/Sの出題についてはよいが、期首のものなのか、期末のものなのか、問題解答用紙に全く記載がなく、ありえない問題である。この問題自体なりたっていない。(鹿児島)

第9回～ 出題22問

S/SとB/Sのつかりを認識して作問した

281人/1,000人が正答、受験生はS/Sのつかりは理解しては考えていた

〔原価計算〕 第84回

全 般

- ① 適切な出題内容である。全体的に良問である。(北海道)
- ② 標準的な内容で良問であった。(青森)
- ③ 良問である。(岩手・茨城・群馬・福井・熊本)
- ④ 全体的に妥当な問題であった。(山形)
- ⑤ 内容的にも、難易度的にもバランスの良い妥当な問題であった。(宮城)
- ⑥ 全体的に良問であった。(栃木・富山・山口)
- ⑦ 標準的な良い問題である。適切な出題内容である。(京都)
- ⑧ 例年どおりのオーソドックスな出題だったと思います。処理を丁寧にすることで正當につながるように出題されており、丁寧に学習した生徒の実力が現れる良問だったと感じました。(秋田)
- ⑨ 適切な問題であった。(香川)
- ⑩ 全体を通してバランス良く問題が作られており(出題されており)良かった。(滋賀)
- ⑪ 難易度もちょうどいい良問である。(鳥取)
- ⑫ 全体的に易しい問題であった。(島根)

1 仕 訳

- ① 標準的な問題で、しっかりと学習した生徒であれば、きちんと答えられる良問であった。(奈良)
- b① 「雑益」とするところを「作業くず」としてしまった生徒が多かったです。(秋田)
- b② 「評価しないでおいた作業くず」を作業くず勘定で処理している誤答が多かった。(鹿児島)
- f① 工場会計が独立している場合の仕訳が出来ていない。(佐賀)

2 作表問題

- ① 標準的な問題であり、きちんと学習した生徒であれば、安易に答えられる問題であった。(奈良)
- ② B組製造の総勘定元帳の対照勘定については必要か?とも思われる。企業会計において、数字の有無や計算は必須であるが、通常の仕訳の問題の採点基準ならわかるが、実務において工場会計がそこを必ず…というものかとも思われる。(鹿児島)

3 計算問題

- (1)① 第一文の主語は「原価」ではなく、「原価計算」とした方が、第二文と上手く繋がります。第一文の主語を「原価」とした理由をお答えください。(神奈川)
- ② 全部原価計算に対しての部分原価計算という言葉は生徒にあまりなじみのない言葉のように感じられる。授業や問題集でよく確認する語句から意味を問うような問題にしていきたい。(滋賀)
- (2) 基本的な内容をきちんと理解できていれば解答できる問題であった。(奈良)
- (3)① 配点を大きくしても良いのではないかと。(栃木)
- ② 学習内容をきちんと理解していれば答えられる問題であった。(奈良)
- (4)① どちらかが不利差異でもよかったのではないかと。(岐阜)

- ② 標準原価計算についての内容を理解し、繰り返し問題を解いている生徒であれば答えられる問題である。
(奈良)

- (5) CVP分析についての学習内容をきちんと理解していれば答えられる問題である。(奈良)

4 総合問題

- ① 製造部門費配賦差異を採点箇所にするべき。(岐阜)
- ② 問題の難易度については問題ないが、個別原価計算は、解答の形式を変えても処理する内容が多いため、どうしても時間がかかってしまう。(奈良)
- ③ 部門費振替表については問題用紙または解答用紙に記載してほしい。(岡山)
- ④ 問題集や過去の問題に、部門費振替表を各自で作成するものがあまりなかったので、理解していない生徒には難しく感じたようである。(愛媛)
- ⑤ 解答欄に部門費振替表があるとときとないときで比較すると生徒の理解度に差があることがわかりました。(大分)
- (2)① T勘定記入は2・3級同様に罫線があってほしい。
(沖縄)
- ② 勘定記入の問題では、行の補助線があってもよいのでは。(大阪)
- (3) 採点箇所が製品単価ではない方がよいのではないかな。出題も部門費振替表でよいのではないかな。(青森)

〔原価計算〕 第85回

全 般

- ① 例年並みの難易度。全体的に良問である。(北海道)
- ② まんべんなく出題されており良問であった。(青森)
- ③ 基礎基本をおさえながら、斬新な出題も見られ、理解力を問う適切な出題であった。(宮城)
- ④ 全体的に妥当な問題であった。(山形)
- ⑤ 良問であった。(群馬・山口・島根)
- ⑥ 思考力、理解力を問う良い問題であった。(京都)
- ⑦ 適切な問題であった。(香川)
- ⑧ 簿記の内容を理解していないと解けないような問題が多くあった。問題の形式に関係なく、問題を解けるように指導していきたいと思う。(愛媛)
- ⑨ ポリュームのある内容であったが、難易度が安定しており、良問であった。(熊本)
- ⑩ 全般的に基礎・基本を重視した問題であると感じました。
(大分)
- ⑪ バランスのとれた問題だった。(沖縄)
- ⑫ 比較的平易で、今回の合格率は、全国的に高まる気がします。良問だったと思います。ありがとうございました。
(埼玉)
- ⑬ 今回用語問題の出題がなかったのは意味があるのでしょうか。(滋賀)

1 仕 訳

- ① 原価計算での基礎知識を問う取引・仕訳内容であり、適切な問題であった。(奈良)
- b① 借方貸方が逆の仕訳が多かった。(静岡)
- ② 移動平均法、総平均法とで混乱した生徒がいた。(島根)
- c① 1行目に「組間接費を各組の組直接費を基準として配賦率を求め、A組とB組に配賦した」とあります。これに

対し、従来(例えば80回など)は、「組間接費を各組の組接費を基準としてA組とB組に配賦した」です。従来の表現なら問題はありますが、85回の表現では、「各組の組直接費を基準として配賦率を求め」るわけですから、配賦率を各組ごとに計算するかのような誤解を与えないでしょうか。従来の表現を変更した理由をお答えください。(神奈川)

- d① 第1工程の完成品の金額を倉庫保管のものと間違えていた。(静岡)

2 作表問題

- (1)① 減損完成品のみ負担がやや難しいが、良問である。
(北海道)
- ② 「減損あり」の出題で、不正解の生徒が多かった。
(青森)
- ③ 減損に関する問題が、出題された事を評価したい。
(栃木)
- ④ 「正常減損費」や「正常減損」という語は、実教の教科書には出ていません。教科書に書かれていない語を検定試験に出す場合、どのような基準で判断されているのでしょうか。その基準をお答えください。(基準を公表できないことになっていければ、公表できないことになっている理由をお答えくだされば結構です。)(神奈川)
- ⑤ ここで正常減損が終点で発生するのは、少し難易度が高い気がする。(富山)
- ⑥ 正常減損が入り、資料と製造勘定の関係が分からないと解けない。難易度が高い問題。(静岡)
- ⑦ 原価計算表作成の問題で減損処理が入ってきたことは、初めてでありますが、これが問題であると思えない。むしろ、この程度は理解していないといけなく考えている。(三重)
- ⑧ 基本的な問題であり、繰り返し学習をしている生徒であれば難なく解答できる問題であった。(奈良)
- ⑨ 思った以上に労務費と経費を分類できない生徒がいた。また、当月製造費用が示してあるのに、減価償却費を求められない生徒も多かった。(山口)
- ⑩ 製造減損費を完成品のみ負担させる考え方を理解していない生徒がいた。(佐賀)
- ⑪ 完成品負担を理解していない生徒が見受けられた。
(鹿児島)
- ⑫ 月末仕掛品原価の計算時の正常減損の処理方法授業では学習されていたが、検定模擬問題・過去問題等では出題されておらず、解答率が非常に低かった。(鹿児島)
- ⑬ 正常減損の考え方や処理方法を理解していなかった解答が多く見られた。(鹿児島)
- ⑭ 正常減損と完成品に負担させる月末仕掛品を求めるところをミスしている生徒が多かった。過去にも出題されているので、妥当な問題といえるのではないかな。
(鹿児島)
- ⑮ 16点問題の正常減損の出題であったため影響が大きく、点数に差が出た。(滋賀)
- ⑯ 減損が計上されていることに戸惑う生徒が多かった一方、何も分からずいつも通りに解いた生徒も解けてしまうため、間違えた生徒が多かった。(和歌山)
- ⑰ 完成品数量に2,150 kgと書いてしまう生徒が多く、単価の計算ミスが目立った。(和歌山)
- ⑱ 正常減損を含んだ問題は、過去問でも模擬問題でも無

かったため、教科書に付随するテキストのみでの練習では、十分に対応できなかった。(徳島)

(2)① 減価償却費を問う必要がないのではないかと。(京都)

② 難しくはなかったが、計算問題に減損が導入され生徒は戸惑ったようである。会計と違い一カ所のみ新しい出題方法で良かったと思う。少しずつ変化が見られると指導する方も変化を想定して指導できると思う。(熊本)

3 計算問題

① (3) (4) 両方でひねった問題が出題されたわけで、受験者の負担がいつもより大きかったと考える。ひねった問題は、どちらか一つでよかったのではないかと。(新潟)

(1)① 基準的な問題であり、過去問を中心にきちんと学習していた生徒は答えられる問題であった。(奈良)

② 貸率差異(借方差異の場合)予定と実際の消費高の関係が理解していない生徒がいた。(佐賀)

(2)① 等級別の基本的な計算問題であり、妥当であった。

(奈良)

(3)① パーシャルプランの勘定記入を問う問題で良かったと思う。(滋賀)

② 標準原価計算の問題で、パーシャルプランと組み合わせた出題。やや難易度の高い問題であった。(新潟)

③ 差異をまとめて諸口とせず、すべて書いた方がいい。(富山)

④ 標準原価計算の計算でパーシャルプランによる製造勘定の問題が新たに追加された。(静岡)

⑤ 標準原価計算の問題で、今回のような形式は希であるように思われるが、計算のみではなく勘定口座とのつながりを問うことも良いと思う。(三重)

⑥ この分野の問題は、例年代わり映えない問題ばかりだったが、パーシャルプランによる記帳方法から、各問いに解答する問題は新鮮で良かった。今後は、原価管理による差異分析につながって行くことを期待したい。

(奈良)

⑦ 製造勘定の差異をあらわしている「諸口」はわかりにくいのではないかと。(岡山) *おれに自分で検討したい*

⑧ パーシャルプランの製造勘定記入ができていなかった。(佐賀)

⑨ パーシャルプランの考え方がきちんと理解していない生徒がいた。(佐賀)

⑩ パーシャルプランによる記帳方法は、過去問題にもほとんど出題されていないので、正答率が低かったようだ。妥当な問題とはいえない。(鹿児島)

⑪ 標準原価計算の問題で製造勘定の金額を問う問題は理解していないと正しい解答は出せないで良問だと思う。(鹿児島)

⑫ パーシャルプランの全投入など、普段あまり見ない問題が出ていたので解けない生徒もいた。(沖縄)

a ① 標準原価計算の製造勘定の労務費(Aの金額)の求め方を理解できていないものが多かった。(パーシャルプランを理解できていない)(鹿児島)

b ① 月末仕掛品原価の処理方法が記載されておらず、計算に苦慮する合計から、差し引いて求めることができるが、その方法では次月繰越の本質と外れると考えられる。

(鹿児島)

(4)① 直接原価計算の問題で、売上高を算出するのに完成品数量と月末製品棚卸高を見比べて計算する、よく読めばで

きる問題であるが、そこを見落とした場合、全問不正解となる可能性が高い問題で、これもやや難。(新潟)

② 基本的な問題であった。(奈良)

③ 資料①～④のような考え方は目新しく良かったと思う。(滋賀)

a ① 思考力を問う良問であるが、戸惑う生徒が多かった。(京都)

② 当月の販売数量が与えられていなかったため、できていなかった。(佐賀)

③ 完成品数量で計算している生徒が多かった。(佐賀)

④ 月初製品棚卸高が0個ということに慣れていないせいか誤答の生徒が多かった。よく読めばわかる問題であり、良問である。(鹿児島)

⑤ 「販売数量」を「完成品数量」と資料の読み取りを間違えて計算している受験生が目立った。(鳥取)

b ① 貢献利益率(変動費率)は50%でない方が良かったのではないかと。(京都)

4 総合問題

① 取引の中で31日⑪と⑫を分けて仕訳させることに対しては賛成である。これまでの一括したものでは、製造部門費配賦差異勘定を相殺して仕訳してしまう場合もあり、別々に差異分析することによって、分けて仕訳することの意義を理解させられる。(茨城)

② ⑪⑫一つの仕訳にまとめれば良いのではないかと。(富山)

③ 取引について、最後の差異⑪⑫を分けていたことについて、どのような意図があったのか知りたい。(奈良)

④ 個別原価計算が続いていますが、今後も続きますか。

(静岡)

⑤ 勘定記入で、日付が解答に入る場合、他の勘定と上下が入れ替わった場合、上記に1/31とあると「//」で表記される。この場合の正当を注意書き等で示してほしい。

(愛知)

⑥ ⑨で戸惑う生徒もいるかもしれないが、大きな問題はない。適切であったように思われる。(三重)

⑦ 平成29年度2回実施のうち、2回とも部門別個別原価計算が出題は、かたよりに感じる。(三重)

⑧ 勘定記入の問題では行の補助線があってもよいのでは。

(大阪)

⑨ T勘定記入は2・3級同様に罫線があってほしい。(沖縄)

別解があるようにも考えた

難易度を問うという意見あり

〔将来の運営〕

【84 回】

- ① 各級とも以前のように試験開始後 40 分間は退出できない方が良いと感じた。(青森)
- ② ほとんどの受験生が早く解答を終えるので 90 分は必要ない。今まで通り途中退室を可にするか、試験時間を 60 分にするなど考えてほしい。(大阪)
- ③ 合格発表日の日付を明確に決めて欲しい。(栃木)
- ④ 県本部校書類到着日 4 月 1 日、第 84 回検定申込 4 月 10 日開始。上記日程では、各試験条項への書類送付期間が短い。年度の区切りがあることも理解できるが、県本部校への書類到着日を 3 月下旬に早めてもらいたい。(新潟)
- ⑤ 申込時期を 2 週間程度繰り下げてほしい。新学期は多忙であり、発送手続きが時間が無い中、大きな負担である。余裕を持って発送できたと思う。(静岡)
- ⑥ 難易度や出題範囲と珠算電卓や情報処理とのバランスから考え、科目合格ではなく、1 種目合格の扱いにならないかご検討いただきたいです。(神奈川)
- ⑦ 例年通りの内容だが新しい形式の出題があると混乱するため、サンプル問題を提示していただけたらありがたい。(静岡)
- ⑧ 試験場校経費をもう少し増やすことはできないでしょうか。受験者が少ないと監督手当等が十分に支払えない。(静岡)

【85 回】

- ① 途中退出ができなくなったが、3 級は 60 分程度、2 級でも 80 分あれば十分である。途中退出できないのであれば、試験時間を短くしてもらいたい。(神奈川)
- ② 途中退出不可というのを見直していただきたいと思います。3 級くらいであれば 30 分から 40 分程度で解答し終わっている生徒も多いため、時間の自由を制限しているように感じられます。(受験後に部活動へ参加する生徒も多い)(愛知)
- ③ 3 級のみで良いので、途中退室の制度を復活していただきたいです。ほとんどの生徒が 1 時間程度で解答し終わっている状態でした。(三重)
- ④ 途中退室ができなくなった経緯を説明してほしい。(複数あり)(大阪)
- ⑤ 途中退室ができないのであれば、問題用紙・計算用紙の回収はしなくてもよいのではないか。(大阪)
- ⑥ 試験時間について昨年度より再検を行うようになったが、このことにより受験数の多い学校では、長時間にわたる採点となった。最終的に採点自体の終了時間が 17:00 頃で、係が帰宅できる時間は 18:00 過ぎとなり、負担が多くなった。よって、原価計算を 12:40 から始める。または、会計と 2 級を 9:00～、原価と 3 級を 10:40～始める。など開始時間を考えていただきたい。なお、山間部の学校では交通手段が限られるため、各校に応じて弾力的に運営できないかという意見があった。(群馬)
- ⑦ 3 級と 2 級のインターバル 20 分が短い。ミスを生む原因となるので、考えてほしい。(大阪)
- ⑧ 合格発表の時期について、早めに設定することは可能か。(宮崎県)
- ⑨ 支援を要する生徒の対応について 本件には、例えば文字を小さく書くことが難しい要支援生徒がおり、補助簿等への解答が書き切れず、解答しても正解にならない生徒がい

る。全国的に様々な要支援生徒がいると思うが、そのような生徒への配慮を検討しているかどうか、全商協会の見解を伺いたい。(岩手)

- ⑩ 試験当日の全商協会サーバになかなかつながらなかった。(栃木)
- ⑪ 問題用紙が一部折れて入っていた。(栃木)
- ⑫ 大きな出題変更が必要なとき、変更の出題前に布石として出題予定問題等の事前配付が必要だと思う。日商簿記検定でも布石として出題例が配付されている。(静岡)
- ⑬ 合格発表の形式を統一して欲しい。「受験申込者名簿件成績記入表」データファイルから、合格者の番号だけを抽出して掲示できるようにできない。合格発表の形式も各校統一の方がいいと思います。(三重)
- ⑭ 予備の問題用紙数が少ない。級によっては 3 部しかあまらないので、せめて各級とも 1 袋余分に入れてほしい。(大阪)
- ⑮ 交通機関延着時の対応はどのようなルールになっているか。(大阪)
- ⑯ 受験時間中に J アラートが発令した場合の対応を検討してほしい。(大阪)
- ⑰ 試験場校が分会場校分の処理をすることが負担である。他校のことなので、間違いがないか大変気を遣う。会員校であれば少人数でも試験場校として認めてほしい。直接 Web 入力ができるし、試験問題の発送も各校に直接発送してもらう方が無駄がない。(和歌山)
- ⑱ 分会場校への問題・賞状を全商から直接するようにしてほしい。とくに賞状は分けた状態で試験場校に届き、それを分会場校に送付することに疑問を感じる。(和歌山)
- ⑲ 賞状は級・科目ごとに分けられて送られてくるが、枚数によっては 1 つにまとめてもらった方が、費用も手間も省けるのではないのでしょうか。(和歌山)
- ⑳ 87 回から適用となる問題構成の変更についての質問が出されました。Web にアップされた内容をわからない会場校も複数ありました。(宮城)
- ㉑ 原価計算の問題構成の変更がホームページにアップされているが、トップページ等にもアナウンスがなく、いつアップされたのかわかりませんでした。85 回検定については 87 回からの問題構成と同じであるが、86 回検定も同様と考えて良いのか。(岡山)
- ㉒ 1 級会計は出題傾向が変わっており、問題集がそれに追いついていない印象である。(静岡)

理解を問う問題は心算中心
出題例は多い。

学習指導要領の変更が

大幅な変更がある場合、例示もあり得る

実施時間については実態調査を
行いたい。大玉は変更が必要
し、その点にも行いたい。

コンクール

7/16(日)
東京富士大学

全商簿記実務検定試験 1 級原価計算の問題構成の変更について

全商簿記研究部

1. 目 的

受験者の理解度を正しく測定するために問題構成の変更を行います。

2. 変更内容

問題²は総合原価計算に関する出題とし、問題⁴は個別原価計算（部門別個別原価計算を含む）の出題とします。

3. 適用時期

平成 31 年 1 月に実施予定の第 87 回全商簿記実務検定試験から適用します。

第 86 回検定（平成 30 年 6 月）までの問題構成

- 1 仕訳の問題（24 点）
- 2 作表の問題（16 点）
- 3 適語選択・計算問題（33 点）
- 4 総合問題（27 点）

第 87 回検定（平成 31 年 1 月）からの問題構成

- 1 仕訳の問題（24 点）
- 2 総合原価計算の問題（16 点）
- 3 適語選択・計算問題（33 点）
- 4 個別原価計算の問題（27 点）

総合原価計算においては、月中取引が少ない。9問の配点箇所を確保するため、
今までの出題の方向性を変えるものではなく、取り替えたという事。

第85回 簿記実務検定試験誤答調査一覧表

3 級		
第85回 (調査数 1000 人)		誤答数
問	題	誤答数
1 仕 訳	a. 火災保険料の支払い (現金)	83
	b. 小口現金 (開始支給)	112
	c. 建物の売却 (小切手)	130
	d. 貸付金の支払い (小切手)、利息受け取り	452
	e. 有価証券の購入 (買入手数料あり)	225
	f. 売掛金の貸し倒れ (引当金あり)	278
	g. 現金過不足 (現金過剰、原因調査)	503
	h. 商品の売り上げ (消費税あり)	544
2 伝 票	出金伝票 No. 22 通信費 神戸郵便局 9,000	271
	振替伝票 1/18 当座預金 740,000 / 受取手形 740,000	185
3 仕 訳 帳 ・ 元 帳 ・ 補 助 簿	(1) 仕 訳 帳 12 売り上げ (当座預金)	111
	22 買掛金回収 (当座預金)	98
	買 掛 金 勘 定 30... 支払手形 ... 300,000	295
	給 料 勘 定 1/25... 1 ... 150,000	131
	(2) 買 掛 金 元 帳 (京都商店) 9 ... 1,210,000	111
	(滋賀商店) 31 ... 60,000 (赤記)	170
	商 品 有 高 帳 12 払出 { 800 440 352,000 400 420 168,000	340
4 補 助 簿 ・ 計 算 ・ 適 語	(1) a. 費用総額 4,100,000	191
	b. 期末の資産総額 3,200,000	446
	(2) a. 1	292
	b. 2,000	505
	(3) 2 (精算表)	65
5 決 算	(1) 決算整理仕訳 a 仕 入550,000/繰越商品550,000 繰越商品530,000/仕 入530,000	29
	e 資本金 50,000/引出金 50,000	129
	(2) 備 品 勘 定 (貸方) 12/31 減価償却費 195,000	142
	(3) 損 益 計 算 書 (貸倒引当金繰入) 23,000	163
	(雑 益) 6,000	171
	(当 期 純 利 益) 274,000	316
70点以上の合格者数		681
60点台の不合格者数		98

2 級		
85回 (調査数 1,000人)		
	問 題	誤答数
1 仕 訳	a 株式発行, 創立費	64
	b 手形の書き換え	77
	c 支店相互間の取引	130
	d 法人税等中間申告	100
	e 当期純利益の計上	116
	f 配当金の支払	110
	g 試用販売取引	597
2 特殊仕訳帳	当座預金出納帳 30…受取手形 …… 3 … 160,000	30
	2 … 1,010,000	109
	仕入帳 16 ✓ 買1	52
	25…当座預金 山口商店 …… 100,000 買掛金 …… 148,000 B品 400個 @¥620	49
	純仕入高 1,135,000	40
	総勘定元帳 売掛金 (貸方) 1/31… 880,000	42
	仕入 (貸方) 1/31… 3,000	73
	買掛金元帳 山口商店 (借方) 1/19… 140,000	47
3 本支店・伝票・計算	(1) a. 支店勘定残高と本店勘定残高の一致額 867,000	466
	b. 本支店合併後の買掛金 1,106,000	420
	c. 本支店合併後の売上総利益 2,480,000	784
	(2) a. 523,000	78
	b. 982,000	124
	c. 6,505,000	200
	(3) a. 仕入高 4,890,000	666
4 決 算	b. 期末の負債総額 2,749,000	831
	損益計算書 (売上総利益) 6,088,000	38
	(減価償却費) 320,000	83
	消耗品費 118,000	48
	(当期純利益) 847,000	211
	*貸借対照表の(当期純利益)とあわせて	
	貸借対照表 受取手形一貸倒引当金 1,421,000	12
	有価証券 870,000	51
	(前払保険料) 84,000	56
	(未払利息) 3,000	55
70点以上の合格者数		853
60点～69点の不合格者数		85

誤答は一割以下になる

会 計			
第 8 5 回 (調査数 1,000 人)			正答数
問 題			正答数
1 仕 訳	a. 自己株式の取得		33
	b. 手形の不渡り (保証債務取崩益)		264
	c. 固定資産 (備品) の買い換え (定率法)		373
	d. 企業の合併		701
	e. 社債の買入償還		355
	f. 子会社株式の評価替え		255
	g. 資本金の減少・剰余金の配当		573
2 分 析	(1) ①ア 179% イ 70%		380
	ウ 50% エ 1		206
	オ 10.0% カ 1		355
	キ 2.8% ク 2.0回		466
	ケ 12% コ 2		506
	(2) ア 連結貸借対照表に計上するのれんの金額	38千円	807
	イ 連結貸借対照表に計上する非支配株主持分の金額	500千円	831
3 適 語	a. ア. 4 (正規の簿記)		140
	イ. 8 (複式簿記)		421
	b. ウ. 6 (外部分析)		255
	エ. 9 (実数法(実数分析))		324
4 損 益 ・ 貸 借	(1) 損益計算書の作成 (棚卸減耗費)	(102,000)	158
	(貸倒引当金繰入)	(16,000)	213
	(減価償却費)	(844,000)	197
	保険料	(300,000)	231
	(有価証券利息)	(36,000)	385
	(有価証券評価損)	(100,000)	269
	(2) 株主資本等変動計算書 繰越利益剰余金 当期純利益	(2,310)	344
	その他有価証券評価差額金 当期末残高...	(20,000)	286
	(3) 貸借対照表の負債の部に記載する合計額	8,982,000	573
70点以上の合格者数			451
60点台の不合格者数			151

原 価 計 算			
(調査対象者数 校 1,000名)			
問 題			誤答数
1	a. 従業員賞与手当 (単純総合原価計算)		227
	b. 消費材料勘定から材料消費価格差異勘定への振り替え		421
	c. 組間接費の配賦 (組直接費を基準)		366
	d. 第1・第2工程完成品原価の計上 (工程別総合原価計算)		363
	e. 工場会計の独立 工場従業員への賃金の支払い (本社の仕訳)		418
	f. 全部仕損による仕損費の計上・仕損品評価額あり (個別原価計算)		428
2	(1) 単純総合原価計算表		
	素材費 製品 1 kg当たりの原価	1,634	497
	加工費 月末仕掛品原価	776,000	363
	労務費 合計	6,145,000	448
3	(2) 製造勘定の減価償却費	¥ 240,000	365
	(1) a. 当期材料費	¥ 1,151,000	214
	b. 当期経費	¥ 544,000	464
	c. 当期製品製造原価	¥ 2,975,000	707
	(2) a. 当月の1級製品の製造原価	¥ 560,000	195
	b. 当月の2級製品の製品単価 (単位原価)	¥ 1,250	239
	(3) a. 製造勘定の労務費 (アの金額)	¥ 2,332,000	700
	b. 製造勘定の次月繰越 (イの金額)	¥ 1,710,000	755
	c. 予算差異	¥ 18,000 (不利)	475
	(4) a. 当月の営業利益	¥ 270,000	725
	b. 損益分岐点の売上高	¥ 360,000	300
	c. 目標営業利益¥324,000を達成するための販売数量	1,120 個	344
4	(1) 1/31① (借) 製造間接費196,000 (貸) 工場消耗品196,000		198
	31⑩ (借) 賃率差異 45,000 (貸) 消費賃金 45,000		408
	(2) 素材勘定の貸方 1/12…製造…1,591,000		288
	製造間接費勘定の借方 健康保険料…97,000		224
	第2製造部門費の借方 1/31…製造間接費…293,000		297
	第2製造部門費の借方 製造部門費配賦差異…2,000		461
	(3) 原価計算表(＃1)の直接労務費 1,512,000		212
	原価計算表(＃1)の製品単価 78,360		267
	原価計算表(＃2)の製造間接費 第1…700…450…315,000		177
70点以上の合格者数			471
60点台の不合格者数			212

平成29年度 第84回 簿記実務検定試験第1級満点賞合格者

No.	都道府県	所属学校名	氏名
1	愛知県	豊橋商業高等学校	青木 未希
2	〃	〃	渡邊 千佳
3	岐阜県	県立岐阜商業高等学校	勝野 眞子
4	佐賀県	唐津商業高等学校	山崎 紗耶

平成29年度 第85回 簿記実務検定試験第1級満点賞合格者

No.	都道府県	所属学校名	氏名
1	北海道	帯広南商業高等学校	中野 優奈
2	栃木県	宇都宮商業高等学校	中田 愛梨
3	群馬県	館林商工高等学校	深野 凌
4	千葉県	一宮商業高等学校	宮本 佳凜
5	〃	流山高等学校	山中 菜沙
6	神奈川県	横浜商科大学高等学校	江刺 菜南
7	富山県	富山商業高等学校	新井 捺未
8	静岡県	浜松商業高等学校	木村 真唯
9	〃	清水桜が丘高等学校	秋山 颯希
10	愛知県	一宮商業高等学校	森 樹璃乃
11	〃	碧南高等学校高等学校	小島 優月
12	〃	豊橋商業高等学校高等学校	渡会 梨佳
13	〃	半田商業高等学校高等学校	石橋 侑子
14	〃	〃	速水 美紀
15	岐阜県	県立岐阜商業高等学校	千國 茉音
16	〃	〃	廣瀬 彩香
17	〃	〃	細川 理子
18	〃	岐阜城北高等学校	今井 鈴菜
19	滋賀県	大津商業高等学校	中嶋 優花
20	大阪府	大阪ビジネスフロンティア高等学校	竹田 健人

No.	都道府県	所属学校名	氏名
21	大阪府	大阪ビジネスフロンティア高等学校	山口 佳音
22	大阪府	大阪ビジネスフロンティア高等学校	寺岡 憲伸
23	兵庫県	神港橋高等学校	菅 由利子
24	和歌山県	和歌山商業高等学校	片山 創士郎
25	〃	〃	柘植 妃冴
26	山口県	下関商業高等学校	加藤 憂馬

平成29年度 第84回 簿記実務検定試験申込者数・受験者数・合格者数集計表

平成29年6月25日(日)実施

都道府県	種別	3 級		2 級		1 級				合 計		1 級 合 格			
		高 校	一 般	高 校	一 般	会 計		原 計		高 校	一 般	同一回		4 回以内	
						高 校	一 般	高 校	一 般			高 校	一 般	高 校	一 般
北海道	申込	481	12	687	3	807	2	689	1	2,664	18	16	1	194	1
	受験	431	11	621	3	751	2	626	1	2,429	17	17		195	
	合格	182	5	131	1	404	2	194	1	911	9				
青 森	申込	255	0	414	1	386	0	209	0	1,264	1	5	0	100	0
	受験	242	0	396	1	372	0	200	0	1,210	1	5		100	
	合格	102	0	104	0	196	0	45	0	447	0				
岩 手	申込	477	1	596	0	490	0	396	0	1,959	1	17	19	137	0
	受験	438	0	577	0	476	0	380	0	1,871	0	36		137	
	合格	240	0	118	0	203	0	121	0	682	0				
宮 城	申込	224	0	214	0	321	1	178	0	937	1	19	0	94	0
	受験	184	0	185	0	287	1	148	0	804	1	19		94	
	合格	46	0	32	0	171	0	58	0	307	0				
秋 田	申込	365	0	84	0	142	0	261	0	852	0	17	0	41	0
	受験	345	0	71	0	140	0	254	0	810	0	17		41	
	合格	109	0	17	0	60	0	94	0	280	0				
山 形	申込	82	0	213	0	230	0	305	0	830	0	20	0	103	0
	受験	79	0	199	0	223	0	297	0	798	0	20		103	
	合格	26	0	103	0	139	0	96	0	364	0				
福 島	申込	280	0	546	0	473	0	563	0	1,862	0	20	0	168	0
	受験	257	0	522	0	449	0	545	0	1,773	0	20		168	
	合格	136	0	181	0	245	0	220	0	782	0				
茨 城	申込	270	1	277	2	567	0	1,048	0	2,162	3	17	0	222	0
	受験	251	0	265	2	522	0	1,004	0	2,042	2	17		222	
	合格	66	0	71	0	255	0	504	0	896	0				
栃 木	申込	310	0	118	0	704	1	1,256	0	2,388	1	61	0	253	1
	受験	303	0	113	0	667	1	1,216	0	2,299	1	61		254	
	合格	198	0	35	0	398	1	658	0	1,289	1				
群 馬	申込	181	0	72	0	1,531	0	989	0	2,773	0	69	0	321	0
	受験	167	0	62	0	1,492	0	962	0	2,683	0	69		321	
	合格	50	0	11	0	961	0	473	0	1,495	0				
埼 玉	申込	693	1	921	1	880	1	698	0	3,192	3	11	0	274	0
	受験	642	1	870	0	843	1	664	0	3,019	2	11		274	
	合格	217	0	350	0	466	0	258	0	1,291	0				
千 葉	申込	331	8	452	4	370	0	378	2	1,531	14	23	0	129	0
	受験	289	7	427	4	336	0	351	2	1,403	13	23		129	
	合格	152	3	145	1	152	0	168	2	617	6				
山 梨	申込	67	0	93	0	260	0	432	0	852	0	11	0	96	0
	受験	65	0	88	0	251	0	415	0	819	0	11		96	
	合格	36	0	9	0	133	0	208	0	386	0				
東 京	申込	301	9	663	1	490	4	383	2	1,837	16	43	1	173	0
	受験	249	8	603	1	418	3	330	2	1,600	14	44		173	
	合格	46	6	237	0	229	1	165	2	677	9				
神奈川	申込	55	0	295	0	274	0	179	1	803	1	21	0	111	1
	受験	42	0	277	0	263	0	138	1	720	1	21		112	
	合格	11	0	86	0	157	0	54	1	308	1				
新 潟	申込	87	1	120	0	713	0	710	0	1,630	1	12	0	155	0
	受験	81	0	104	0	686	0	663	0	1,534	0	12		155	
	合格	27	0	42	0	421	0	330	0	820	0				
富 山	申込	97	0	160	0	403	0	436	1	1,096	1	24	0	105	0
	受験	91	0	142	0	374	0	410	1	1,017	1	24		105	
	合格	35	0	34	0	165	0	135	0	369	0				

都道府県	種別	3 級		2 級		1 級				合 計		1 級 合 格			
		高 校	一 般	高 校	一 般	会 計		原 計		高 校	一 般	同一回		4 回以内	
						高 校	一 般	高 校	一 般			高 校	一 般	高 校	一 般
石 川	申込	87	0	219	0	202	0	556	0	1,064	0	2	0	102	0
	受験	68	0	212	0	192	0	536	0	1,008	0	2		102	
	合格	15	0	45	0	111	0	322	0	493	0				
福 井	申込	141	0	131	0	297	0	164	0	733	0	21	0	144	0
	受験	130	0	130	0	285	0	154	0	699	0	21		144	
	合格	45	0	48	0	189	0	72	0	354	0				
長 野	申込	150	0	108	0	349	0	916	1	1,523	1	12	0	135	0
	受験	142	0	103	0	330	0	883	1	1,458	1	12		135	
	合格	75	0	18	0	145	0	373	1	611	1				
静 岡	申込	418	0	724	1	827	2	864	1	2,833	4	55	0	349	1
	受験	401	0	692	1	801	2	815	1	2,709	4	55		350	
	合格	187	0	275	1	438	1	331	0	1,231	2				
愛 知	申込	529	10	701	3	1,184	1	1,057	1	3,471	15	171	1	464	0
	受験	471	9	654	1	1,130	1	992	1	3,247	12	172		464	
	合格	159	3	279	0	721	1	540	1	1,699	5				
岐 阜	申込	221	7	423	0	707	0	1,073	0	2,424	7	66	0	362	0
	受験	197	7	412	0	693	0	1,056	0	2,358	7	66		362	
	合格	69	3	125	0	478	0	670	0	1,342	3				
三 重	申込	209	6	449	6	242	0	134	0	1,034	12	9	0	166	0
	受験	204	5	441	6	237	0	124	0	1,006	11	9		166	
	合格	119	2	332	3	180	0	89	0	720	5				
滋 賀	申込	146	0	230	0	298	0	172	0	846	0	22	0	63	0
	受験	137	0	202	0	281	0	160	0	780	0	22		63	
	合格	72	0	52	0	194	0	73	0	391	0				
京 都	申込	20	4	99	0	83	0	28	0	230	4	4	0	20	0
	受験	20	4	94	0	82	0	27	0	223	4	4		20	
	合格	9	3	25	0	54	0	5	0	93	3				
大 阪	申込	337	6	782	9	382	0	399	1	1,900	16	22	0	176	0
	受験	261	5	741	7	349	0	375	1	1,726	13	22		176	
	合格	57	3	274	2	216	0	161	1	708	6				
兵 庫	申込	1,088	25	564	0	1,267	2	832	0	3,751	27	54	0	430	0
	受験	1,041	24	536	0	1,196	2	774	0	3,547	26	54		430	
	合格	750	3	243	0	719	1	423	0	2,135	4				
奈 良	申込	38	0	187	0	176	0	93	0	494	0	8	0	93	0
	受験	35	0	172	0	170	0	82	0	459	0	8		93	
	合格	8	0	54	0	121	0	17	0	200	0				
和歌山	申込	87	0	228	2	140	0	52	0	507	2	9	0	58	0
	受験	72	0	218	2	114	0	40	0	444	2	9		58	
	合格	33	0	162	2	75	0	13	0	283	2				
鳥 取	申込	39	0	236	0	234	0	100	0	609	0	8	0	82	0
	受験	36	0	233	0	229	0	99	0	597	0	8		82	
	合格	9	0	159	0	123	0	14	0	305	0				
島 根	申込	148	4	219	0	212	0	129	0	708	4	6	0	47	0
	受験	127	4	208	0	203	0	122	0	660	4	6		47	
	合格	19	1	59	0	122	0	33	0	233	1				
岡 山	申込	315	1	285	5	732	0	1,566	0	2,898	6	24	0	303	0
	受験	223	1	272	5	690	0	1,520	0	2,705	6	24		303	
	合格	61	0	103	1	381	0	865	0	1,410	1				
広 島	申込	297	0	544	0	379	0	370	0	1,590	0	22	0	128	0
	受験	266	0	492	0	340	0	336	0	1,434	0	22		128	
	合格	92	0	148	0	179	0	151	0	570	0				
山 口	申込	178	10	340	1	366	0	210	0	1,094	11	11	0	151	0
	受験	158	9	331	1	354	0	192	0	1,035	10	11		151	
	合格	74	7	138	0	197	0	75	0	484	7				

都道府県	種別	3 級		2 級		1 級				合 計		1 級 合 格			
		高 校	一 般	高 校	一 般	会 計		原 計				同一回		4 回以内	
						高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般
香 川	申込	199	0	275	0	647	0	286	0	1,407	0	28	0	233	0
	受験	182	0	272	0	625	0	262	0	1,341	0	28		233	
	合格	94	0	132	0	401	0	154	0	781	0				
徳 島	申込	54	0	162	0	201	0	151	0	568	0	11	0	35	0
	受験	47	0	156	0	188	0	141	0	532	0	11		35	
	合格	22	0	39	0	70	0	31	0	162	0				
愛 媛	申込	344	5	329	1	436	1	765	0	1,874	7	35	0	303	0
	受験	321	2	314	0	420	1	737	0	1,792	3	35		303	
	合格	153	1	129	0	297	0	445	0	1,024	1				
高 知	申込	63	1	56	0	55	0	173	0	347	1	1	0	26	0
	受験	56	1	46	0	53	0	165	0	320	1	1		26	
	合格	23	0	6	0	29	0	73	0	131	0				
福 岡	申込	505	0	858	0	870	0	1,208	0	3,441	0	45	0	343	0
	受験	438	0	773	0	837	0	1,146	0	3,194	0	45		343	
	合格	157	0	245	0	519	0	499	0	1,420	0				
佐 賀	申込	86	0	259	0	503	0	279	0	1,127	0	72	0	118	0
	受験	81	0	248	0	493	0	274	0	1,096	0	72		118	
	合格	33	0	99	0	356	0	149	0	637	0				
長 崎	申込	206	2	299	0	661	1	898	0	2,064	3	27	0	231	0
	受験	194	2	283	0	641	0	873	0	1,991	2	27		231	
	合格	85	2	119	0	366	0	485	0	1,055	2				
熊 本	申込	310	1	375	0	435	0	697	0	1,817	1	16	0	137	0
	受験	278	0	322	0	402	0	667	0	1,669	0	16		137	
	合格	108	0	46	0	201	0	358	0	713	0				
大 分	申込	271	0	143	1	148	0	450	0	1,012	1	10	0	84	0
	受験	244	0	133	1	143	0	425	0	945	1	10		84	
	合格	81	0	44	0	96	0	257	0	478	0				
宮 崎	申込	416	24	322	11	550	0	1,121	0	2,409	35	35	0	182	0
	受験	386	24	301	11	536	0	1,097	0	2,320	35	35		182	
	合格	217	19	59	8	270	0	475	0	1,021	27				
鹿 児 島	申込	755	20	962	2	668	0	807	1	3,192	23	49	0	174	0
	受験	694	20	925	2	650	0	784	1	3,053	23	49		174	
	合格	239	12	238	1	324	0	358	0	1,159	13				
沖 縄	申込	292	0	279	0	70	0	90	0	731	0	8	0	15	0
	受験	228	0	248	0	64	0	78	0	618	0	8		15	
	合格	45	0	83	0	33	0	23	0	184	0				
合 計	申込	12,664		16,767		22,378		24,762		76,571		1,269	22	7,830	4
		12,505	159	16,713	54	22,362	16	24,750	12	76,330	241				
	受験	11,438		15,734		21,292		23,551		72,015		1,291		7,834	
		11,294	144	15,686	48	21,278	14	23,539	12	71,797	218				
	合格	4,862		5,504		12,367		11,324		34,057					
		4,789	73	5,484	20	12,360	7	11,315	9	33,948	109				
受験率	受／申	90.3%		93.8%		95.1%		95.1%		94.0%					
		90.3%	90.6%	93.9%	88.9%	95.2%	87.5%	95.1%	100.0%	94.1%	90.5%				
合格率	合／受	42.5%		35.0%		58.1%		48.1%		47.3%					
		42.4%	50.7%	35.0%	41.7%	58.1%	50.0%	48.1%	75.0%	47.3%	50.0%				
82回 合格率	合／受	45.3%		38.6%		23.7%		47.3%		39.0%		606		3,939	
		45.2%	47.1%	38.6%	45.7%	23.7%	36.4%	47.3%	46.2%	39.0%	45.8%				

平成29年度 第85回 簿記実務検定試験申込者数・受験者数・合格者数集計表

平成30年1月28日(日)実施

都道府県	種別	3 級		2 級		1 級				合 計		1 級 合 格			
		高 校	一 般	高 校	一 般	会 計		原 計		高 校	一 般	同 一 回		4 回 以 内	
						高 校	一 般	高 校	一 般			高 校	一 般	高 校	一 般
北海道	申込	1,553	7	2,176	5	1,272	1	1,438	1	6,439	14	164	0	315	0
	受験	1,435	7	2,082	4	1,182	1	1,335	1	6,034	13	164		315	
	合格	801	4	1,444	4	429	0	609	0	3,283	8				
青 森	申込	517	1	970	0	537	0	577	0	2,601	1	80	0	79	0
	受験	469	1	947	0	510	0	550	0	2,476	1	80		79	
	合格	228	0	671	0	147	0	246	0	1,292	0				
岩 手	申込	652	1	909	1	756	0	790	0	3,107	2	46	0	126	0
	受験	606	0	846	0	714	0	727	0	2,893	0	46		126	
	合格	283	0	462	0	171	0	287	0	1,203	0				
宮 城	申込	738	7	1,116	3	539	0	572	0	2,965	10	162	0	62	0
	受験	641	6	1,028	3	462	0	502	0	2,633	9	162		62	
	合格	343	1	631	2	206	0	305	0	1,485	3				
秋 田	申込	513	0	329	0	194	0	180	0	1,216	0	8	0	35	0
	受験	469	0	314	0	190	0	147	0	1,120	0	8		35	
	合格	266	0	158	0	52	0	31	0	507	0				
山 形	申込	579	0	365	0	442	0	448	0	1,834	0	92	0	44	0
	受験	552	0	353	0	429	0	436	0	1,770	0	92		44	
	合格	407	0	272	0	161	0	210	0	1,050	0				
福 島	申込	1,493	16	1,402	0	746	1	828	0	4,469	17	92	0	170	1
	受験	1,390	16	1,347	0	699	1	779	0	4,215	17	92		171	
	合格	935	12	934	0	271	1	379	0	2,519	13				
茨 城	申込	733	0	1,140	1	1,167	1	756	1	3,796	3	57	1	337	0
	受験	660	0	1,103	1	1,078	1	671	1	3,512	3	58		337	
	合格	413	0	782	1	429	1	188	1	1,812	3				
栃 木	申込	974	1	939	1	1,122	0	678	0	3,713	2	67	0	436	0
	受験	892	0	894	1	1,065	0	621	0	3,472	1	67		436	
	合格	562	0	661	1	536	0	202	0	1,961	1				
群 馬	申込	429	0	1,736	0	1,085	1	1,329	1	4,579	2	49	0	712	0
	受験	382	0	1,700	0	1,035	0	1,280	0	4,397	0	49		712	
	合格	149	0	1,432	0	355	0	592	0	2,528	0				
埼 玉	申込	2,423	12	1,985	0	990	0	1,663	0	7,061	12	123	0	261	0
	受験	2,236	12	1,813	0	931	0	1,543	0	6,523	12	123		261	
	合格	1,429	9	1,076	0	313	0	738	0	3,556	9				
千 葉	申込	1,232	0	1,604	1	1,146	0	857	0	4,839	1	218	0	87	0
	受験	1,131	0	1,527	1	1,096	0	808	0	4,562	1	218		87	
	合格	766	0	1,098	1	388	0	393	0	2,645	1				
山 梨	申込	236	0	506	0	423	0	247	0	1,412	0	5	0	110	0
	受験	209	0	476	0	398	0	218	0	1,301	0	5		110	
	合格	92	0	366	0	128	0	56	0	642	0				
東 京	申込	2,664	8	1,915	8	872	4	923	3	6,374	23	110	0	75	1
	受験	2,495	4	1,808	3	796	2	869	1	5,968	10	110		76	
	合格	1,883	2	1,210	1	208	1	366	0	3,667	4				
神奈川	申込	512	1	916	1	495	0	630	1	2,553	3	86	0	35	0
	受験	460	1	849	1	454	0	573	1	2,336	3	86		35	
	合格	234	1	539	0	152	0	232	0	1,157	1				
新 潟	申込	593	2	1,333	0	1,010	0	855	0	3,791	2	57	0	436	0
	受験	552	2	1,277	0	952	0	799	0	3,580	2	57		436	
	合格	303	2	1,040	0	301	0	365	0	2,009	2				
富 山	申込	194	5	798	2	840	1	647	1	2,479	9	138	0	69	0
	受験	172	5	765	2	780	1	619	1	2,336	9	138		69	
	合格	53	3	563	2	220	1	245	1	1,081	7				

都道府県	種別	3 級		2 級		1 級				合 計		1 級 合 格			
		高 校	一 般	高 校	一 般	会 計		原 計		高 校	一 般	同一回		4 回以内	
						高 校	一 般	高 校	一 般			高 校	一 般	高 校	一 般
石 川	申込	286	2	629	0	541	0	268	0	1,724	2	12	0	230	0
	受験	260	2	601	0	517	0	242	0	1,620	2	12		230	
	合格	122	0	456	0	270	0	64	0	912	0				
福 井	申込	523	0	686	0	543	0	582	0	2,334	0	208	0	37	0
	受験	493	0	659	0	507	0	553	0	2,212	0	208		37	
	合格	252	0	536	0	266	0	345	0	1,399	0				
長 野	申込	767	0	468	0	854	1	442	0	2,531	1	12	0	227	1
	受験	741	0	450	0	757	1	395	0	2,343	1	12		228	
	合格	518	0	325	0	279	1	86	0	1,208	1				
静 岡	申込	1,731	14	2,247	11	1,456	0	1,695	0	7,129	25	280	0	197	0
	受験	1,644	11	2,145	11	1,371	0	1,579	0	6,739	22	280		197	
	合格	1,273	5	1,539	4	524	0	730	0	4,066	9				
愛 知	申込	2,300	16	3,766	8	2,194	0	2,257	0	10,517	24	621	0	390	0
	受験	2,146	14	3,587	6	2,104	0	2,156	0	9,993	20	621		390	
	合格	1,571	8	2,664	5	1,098	0	1,263	0	6,596	13				
岐 阜	申込	1,311	18	2,136	8	1,704	0	1,118	3	6,269	29	249	0	459	0
	受験	1,232	13	2,062	7	1,644	0	1,078	3	6,016	23	249		459	
	合格	855	7	1,600	6	744	0	557	1	3,756	14				
三 重	申込	1,187	1	586	0	474	0	617	0	2,864	1	179	0	98	0
	受験	1,120	1	567	0	453	0	591	0	2,731	1	179		98	
	合格	991	1	512	0	305	0	399	0	2,207	1				
滋 賀	申込	569	0	486	0	378	1	493	1	1,926	2	59	1	123	0
	受験	554	0	450	0	346	1	464	1	1,814	2	60		123	
	合格	460	0	302	0	99	1	229	1	1,090	2				
京 都	申込	420	0	355	0	156	0	189	0	1,120	0	39	0	19	0
	受験	374	0	332	0	141	0	179	0	1,026	0	39		19	
	合格	201	0	189	0	48	0	94	0	532	0				
大 阪	申込	2,267	0	1,623	4	945	1	901	1	5,736	6	182	0	86	0
	受験	1,895	0	1,456	4	848	0	839	0	5,038	4	182		86	
	合格	1,199	0	861	0	291	0	379	0	2,730	0				
兵 庫	申込	809	76	1,294	1	1,235	1	1,203	2	4,541	80	59	1	382	1
	受験	749	65	1,229	1	1,107	1	1,111	2	4,196	69	60		383	
	合格	581	33	837	0	331	1	511	2	2,260	36				
奈 良	申込	55	0	621	0	458	0	577	0	1,711	0	136	0	3	0
	受験	51	0	574	0	430	0	539	0	1,594	0	136		3	
	合格	40	0	362	0	147	0	229	0	778	0				
和歌山	申込	801	0	469	0	318	0	341	0	1,929	0	139	0	3	0
	受験	733	0	444	0	297	0	325	0	1,799	0	139		3	
	合格	569	0	276	0	149	0	206	0	1,200	0				
鳥 取	申込	385	0	251	0	327	0	344	0	1,307	0	74	0	20	0
	受験	357	0	233	0	313	0	329	0	1,232	0	74		20	
	合格	258	0	136	0	90	0	170	0	654	0				
島 根	申込	453	5	647	0	470	0	411	0	1,981	5	62	0	51	0
	受験	412	5	605	0	449	0	382	0	1,848	5	62		51	
	合格	254	0	460	0	117	0	167	0	998	0				
岡 山	申込	616	1	1,772	4	1,823	5	806	1	5,017	11	142	0	602	0
	受験	507	1	1,736	3	1,741	4	747	1	4,731	9	142		602	
	合格	226	0	1,478	3	818	0	250	0	2,772	3				
広 島	申込	719	0	1,151	0	1,000	0	820	0	3,690	0	122	0	93	0
	受験	635	0	1,070	0	916	0	730	0	3,351	0	122		93	
	合格	376	0	624	0	249	0	284	0	1,533	0				
山 口	申込	645	0	860	0	818	0	773	0	3,096	0	255	0	56	0
	受験	595	0	836	0	791	0	756	0	2,978	0	255		56	
	合格	432	0	674	0	337	0	415	0	1,858	0				

都道府県	種別	3 級		2 級		1 級				合 計		1 級 合 格						
		高 校	一 般	高 校	一 般	会 計		原 計				同一回		4回以内				
						高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	高 校	一 般	
香 川	申込	408	0	499	0	243	1	470	1	1,620	2	2	0	219	0			
	受験	380	0	469	0	222	1	437	1	1,508	2	2		219				
	合格	214	0	342	0	129	0	243	0	928	0							
徳 島	申込	335	0	368	0	343	0	420	0	1,466	0	27	0	11	0			
	受験	302	0	344	0	308	0	381	0	1,335	0	27		11				
	合格	178	0	163	0	35	0	107	0	483	0							
愛 媛	申込	1,044	1	861	0	757	0	421	0	3,083	1	18	0	238	0			
	受験	959	0	804	0	726	0	388	0	2,877	0	18		238				
	合格	584	0	572	0	363	0	161	0	1,680	0							
高 知	申込	297	1	301	0	193	0	84	0	875	1	0	0	66	0			
	受験	274	0	265	0	180	0	71	0	790	0	0		66				
	合格	130	0	168	0	82	0	37	0	417	0							
福 岡	申込	1,621	0	1,838	1	1,012	0	1,190	0	5,661	1	43	0	342	0			
	受験	1,391	0	1,686	1	933	0	1,089	0	5,099	1	43		342				
	合格	844	0	1,023	0	329	0	399	0	2,595	0							
佐 賀	申込	312	0	1,020	0	428	0	654	0	2,414	0	89	0	197	0			
	受験	283	0	1,005	0	416	0	641	0	2,345	0	89		197				
	合格	173	0	836	0	178	0	395	0	1,582	0							
長 崎	申込	642	1	1,339	0	759	0	444	0	3,184	1	5	0	338	0			
	受験	583	0	1,236	0	710	0	408	0	2,937	0	5		338				
	合格	334	0	931	0	277	0	187	0	1,729	0							
熊 本	申込	902	0	845	0	740	1	572	2	3,059	3	18	0	244	0			
	受験	781	0	771	0	656	1	463	2	2,671	3	18		244				
	合格	409	0	503	0	243	0	111	2	1,266	2							
大 分	申込	896	0	851	0	536	0	247	0	2,530	0	16	0	188	0			
	受験	796	0	794	0	500	0	226	0	2,316	0	16		188				
	合格	474	0	531	0	209	0	76	0	1,290	0							
宮 崎	申込	445	8	1,055	9	871	12	486	0	2,857	29	11	0	263	0			
	受験	385	8	1,006	7	831	11	458	0	2,680	26	11		263				
	合格	206	4	705	6	313	5	133	0	1,357	15							
鹿児島	申込	1,418	26	1,878	17	1,191	1	1,311	2	5,798	46	63	0	205	0			
	受験	1,279	14	1,747	12	1,100	0	1,162	1	5,288	27	63		205				
	合格	674	6	1,043	8	265	0	274	0	2,256	14							
沖 縄	申込	1,491	1	536	0	169	0	270	0	2,466	1	10	0	9	0			
	受験	1,282	1	478	0	140	0	231	0	2,131	1	10		9				
	合格	593	1	224	0	16	0	41	0	874	1							
合 計	申込	41,922		51,663		36,605		33,845		164,035		4,686	3	8,785	4			
		41,690	232	51,577	86	36,572	33	33,824	21	163,663	372							
	受験	38,133		48,838		34,251		31,443		152,665		4,689		8,789				
		37,944	189	48,770	68	34,225	26	31,427	16	152,366	299							
	合格	24,237		34,255		13,080		13,994		85,566						4,250		6,432
24,138		99	34,211	44	13,068	12	13,986	8	85,403	163								
受験率	受/申	91.0%		94.5%		93.6%		92.9%		93.1%								
		91.0%	81.5%	94.6%	79.1%	93.6%	78.8%	92.9%	76.2%	93.1%	80.4%							
合格率	合/受	63.6%		70.1%		38.2%		44.5%		56.0%								
		63.6%	52.4%	70.1%	64.7%	38.2%	46.2%	44.5%	50.0%	56.1%	54.5%							
83回	合/受	61.6%		62.5%		27.6%		46.6%		50.6%		4,250		6,432				
合格率		61.4%	70.4%	62.5%	47.2%	27.6%	24.3%	46.7%	19.6%	50.5%	62.9%							

1. 全商簿記実務検定試験出題範囲の変更について

来年度発行される「財務会計Ⅰ」「原価計算」の教科書において、新たに変更となった箇所において、出題範囲と勘定科目表の変更を検討しています。

簿記実務検定試験出題範囲の変更箇所は次のとおりです。

<1級会計>

(2) 取引の記帳 シ. 株式会社会計 「減債基金」を削除

(4) 決算 ア. 決算整理 「棚卸減耗費」を「棚卸減耗損」に変更

「減債基金」については、教科書に例示がなくなったため削除いたします。また、「棚卸減耗損」は、発行される「財務会計Ⅰ」と「原価計算」の教科書において、「棚卸減耗損」と「棚卸減耗費」とに表記の差が生じたためです。

各級の勘定科目の変更箇所は次のとおりです。

<1級会計>

カ行 「減債用××預金」を削除

タ行 「棚卸減耗費」を「棚卸減耗損」に変更

<1級原価計算>

タ行 「棚卸減耗費」を「棚卸減耗損」に変更

この変更につきましては、検討ののち、決まりましたら本部校にご連絡いたしますとともに、全商ホームページに掲載いたします。

2. 全商簿記実務検定の当面の出題方針について

現在「簿記」の教科書は4冊供給されており、4冊の間で帳簿様式の違いや表記の違い、用語の扱い方に差異が生じています。全商簿記実務検定試験の2級・3級について、以下の方針で今後出題をしてまいります。

①帳簿様式と表記の違いについて

以下に示した11個の論点は、4冊の教科書のなかで、別な表記であったり、取り上げられていない論点がありますが、簿記として重要な論点ですので、全商簿記実務検定試験で過去に出題した帳簿様式や表記での出題をいたします。

	具体例	出題方針
1	当座預金出納帳の「借または貸」欄がない	当座預金出納帳の「借または貸」欄を設ける
2	小口現金出納帳の「残高」欄がない	小口現金出納帳の「残高」欄を設ける
3	買掛金元帳の例示がない	買掛金元帳を出題範囲とする
4	借用証書による借入金、貸付金の例示がない	「借用証書によって」の表記を行う
5	決算での帳簿の締め切り例示で「日付」がない	日付・相手科目・金額で示す
6	精算表で「修正記入」欄と表示	「整理記入」で表記する
7	入金伝票、出金伝票、振替伝票の様式に違いがある	従来通りの様式で出題
8	仕訳集計表を「仕訳日計表」と表記	「仕訳集計表」で出題
9	委託販売で売上計算書を「仕切精算書」と表記	「売上計算書」で出題
10	特殊商品売買において、「未着品売上」「積送売掛金」「積送品売上」「試用品売上」「割賦売上」の表記	「積送売掛金」は「売掛金」で表記 統一して「売上」で表記
11	社債の買入償還の例示がない	社債の買入償還を出題

②用語の取り扱いの違いについて

以下に示した2点について、表記の違いがありますが、全商簿記実務検定試験で過去に出題した表記での出題をいたします。

	具体例	出題方針
1	貸借対照表等式	計算式の例示があるので、用語の出題範囲とする。
2	貸借平均の原理	「貸借一致の原則」の例示がある。「貸借平均の原理」で出題する。

③勘定科目の違いについて

全商簿記実務検定試験出題範囲に示されている「勘定科目」を使用し、出題いたします。対象となる勘定科目は以下のとおりです。

< 3級 >
印紙税・受取地代・固定資産税・事業税・支払手数料・修繕費・従業員預り金・従業員立替金・商品売買損・定期預金
< 2級 >
開業費・社債償還益・社債償還損・配当平均積立金・未払社債・未払税金

この出題方針は、平成30年6月に実施の第86回全商簿記実務検定試験から適用いたしますが、従来の全商簿記実務検定の出題方針である、日頃の学習の成果を測定し、真面目に先生の指導に従って学習していれば、ある程度の目標が達成できるようにという観点の変更はありません。また、現行の学習指導要領による「出題範囲表」にしたがって、従来どおり、努めて偏ることのないように、全般にわたって出題いたします。出題の資料についても、従来どおり、教科書および過去に出題した全商簿記実務検定ならびに全国簿記教育研究協議会でのご意見・ご要望等、さらに、新しい会計基準に関する最新文献・論文等も参考とします。

平成30年度 第34回全国高等学校簿記コンクールについて

全国高等学校簿記コンクールは、学習指導要領に対応した内容とするため、平成27年度第31回大会より「原価計算」を範囲に含め、問題構成を変更しました。

この変更をうけ、すでに全商簿記実務検定で「連結会計」が出題されていることを反映し、簿記コンクールでも前回の平成29年度第33回大会の第2部で「連結会計」を新たに出題しました。

平成29年度第33回全国高等学校簿記コンクールの懇談会でいただいたご意見やご要望を検討し、参加生徒の学習の負担増とならないよう配慮しながら、平成30年度第34回簿記コンクールでは、下記のように出題内容を変更します。

具体的には、第1部の[3]帳簿では取引数を減少し、全商3級・2級の形式で出題したいと考えています。第2部の[7]では本支店会計の問題を3から4題程度に減少し、連結会計の問題を3から4題程度に増加します。また、検定試験と同様に、会計理論や会計規則等の学習も重要であるという観点から、用語に関する問題を第2部の[5]から[8]のなかで1問程度出題したいと考えています。

ただし、大問ごとの配点の割合に変更はありません。

平成29年度

第33回簿記コンクール

出題内容		配点の割合
第1部	[1] 仕訳	概ね30%
	[2] 伝票	概ね10%
	[3] 帳簿	概ね30%
	[4] 決算	概ね30%

第2部	[5] 財表分析等	概ね25%
	[6] 特殊商品売買	概ね25%
	[7] 本支店会計	概ね25%
	[8] 原価計算	概ね25%

平成30年度

第34回簿記コンクール

出題内容		変更点等
第1部	[1] 仕訳	—
	[2] 伝票	—
	[3] 帳簿	取引数減少 前年から2~3割減少 全商3級・2級の形式(教科書の形式)
	[4] 決算	—

第2部	[5] 財表分析等	—
	[6] 特殊商品売買	—
	[7] 本支店会計 連結会計	3~4問程度に減少 3~4問程度に増加
	[8] 原価計算	—
[5]~[8] 用語		第2部で1問程度

多くの生徒の
得点源に
なっている
ので、2~3割
の減少を
目指している

前年から2~3割減少
(教科書の
形式)

簿記実務検定試験出題範囲（検討事項）

この検定試験は、文部科学省高等学校学習指導要領に定める内容によっておこなう。

I 各級の出題範囲

各級の出題範囲は次のとおりである。ただし、2級の範囲は3級の範囲を含み、1級の範囲は2・3級の範囲を含む。

内 容	3 級	2 級	1 級（会計）
(1) 簿記の基礎	ア. 資産・負債・純資産・収益・費用 イ. 取引・仕訳・勘定 ウ. 仕訳帳・総勘定元帳 エ. 試算表 オ. 繰越試算表 カ. 貸借対照表・損益計算書		
(2) 取引の記帳	ア. 現金預金 イ. 商品売買 分記法・3分法 ウ. 掛け売買 貸し倒れ エ. 手形 手形の受け入れ・振り出し・ 引き受け・支払い・裏書・割引 オ. 有価証券 売買を目的とした有価証券 カ. その他の債権・債務 キ. 固定資産 取得・売却 ク. 販売費及び一般管理費 ケ. 純資産 コ. 税金 所得税・住民税・固定資産税・ 事業税・印紙税・消費税	割賦販売(販売基準)…………… 未着商品売買・委託販売(委託者 側の処理)・試用販売 自己受為替手形・手形の不渡り ・手形の書き換え・荷為替 裏書や割引にともなう保証債務 …….. …….. 法人税 サ. 本支店会計 本支店間・支店相互間の取引・ 財務諸表の合併 シ. 株式会社会計 設立・新株の発行・剰余金の配 当と処分 社債	(回収基準) 予約販売 満期保有目的の債券・子会社株 式・その他有価証券・有価証券 利息 除却・建設仮勘定・無形固定資産 自己株式 合併・資本金の増加・資本金の 減少・任意積立金の取り崩し・ 減価基金
(3) 帳簿と伝票	ア. 帳簿 現金出納帳・小口現金出納帳・当座 預金出納帳・仕入帳・売上帳・商品 有高帳(先入先出法・移動平均法) ・売掛金元帳・買掛金元帳・受取手 形記入帳・支払手形記入帳 イ. 伝票 入金伝票・出金伝票・振替伝票の起 票	特殊仕訳帳(現金出納帳・当座預 金出納帳・仕入帳・売上帳) …….. 仕入伝票・売上伝票の起票・伝 票の集計と転記	(総平均法)
(4) 決算	ア. 決算整理 商品に関する勘定の整理 貸倒れの見積もり 固定資産の減価償却(定額法) (直接法) イ. 精算表 ウ. 財務諸表 損益計算書(勘定式) 貸借対照表(勘定式)	…….. (定率法) …………… (間接法) 有価証券の評価 収益・費用の繰り延べと見越し …….. (2区分の勘定式) …………… ……..	商品評価損・棚卸減耗損 (生産高比例法) 退職給付引当金 (報告式) (報告式) その他の財務諸表

平成30年度以降の変更点等について

- 1 平成30年度 公益財団法人全国商業高等学校協会事業計画.....資料1号
- 2 平成30年度 各種検定実施期日及び受験料内訳.....資料2号
- 3 平成30年度 各種検定試験の適正実施について（通知）.....資料3号
- 【参考】「各種検定試験における遅刻及び途中退出の取扱いについて（通知）」の
運用について（写）.....資料3-1号
- 【参考】検定試験実施時における緊急時の対応について（通知）（写）.....資料3-2号
- 4 検定試験中止に伴う受験料の取扱いについて（通知）.....資料4号
- 5 熊本地震による「検定受験料免除事業」の再延長について（通知）.....資料5号
- 6 年度別各種行事開催地一覧.....資料6号
- 7 検定試験問題の袋の「のり付け」の統一について
- 8 各種全国競技大会等における参加賞の統一について
- 9 ビジネスコミュニケーション検定試験 筆記試験過去問題綴り（別冊）

▲ ぜひ、受馬食するよう指導をお願いしたい。

検定、1週間から緊急webがほしい。

1週間前には一回は見てほしい。

参加記念品として、各大会の競技を統一したい。
補欠の生徒分も用意する。

平成30年度 公益財団法人全国商業高等学校協会事業計画

月	日	行 事	月	日	行 事
4	上旬	商品開発調査(随時ホームページ掲載)	8	7(火)~10(金)	商業教育講習会(情報スキルを伸ばす講義と実習Ⅰ・大阪ビジネスフロンティア)
	7(土)	第7回理事会		19(日)~24(金)	第52回海外商業教育事情視察(インド)
	中旬	会計外部監査		下旬	全商プログラミング・コンテスト審査
	15(日)	高校生奨学事業願書受付締切	9	8(土)	第3回理事会
	18(水)	卒業生進路調査締切		中旬	大学生奨学事業奨学金第1回交付
	20(金)	第1次助成金交付		9(日)	第60回英語検定試験
	30(月)	高校生奨学事業推薦締切		21(金)	第2次助成金交付
5	〃	大学生奨学事業願書受付締切	10	23(日)	第59回情報処理検定試験
	5(土)	第8回理事会・会計内部監査・実務検定連絡協議会		1(月)	創立70周年記念誌刊行
	〃	高校生奨学事業奨学生決定		28(日)	第10回会計実務検定試験
	〃	大学生奨学事業奨学生決定	11	下旬	商業経済検定ニュース第31号発行
	中旬	「全商広報」第37号・「全商ポスター」・「高校の商業教育」・「生徒採用のお願い」発行		11(日)	第137回珠算・電卓実務検定試験
	中旬	情報教育第64号発行		17(土)	第4回理事会
	中旬	簿記検定ニュース第89号発行		21(水)~22(木)	第26回全国高等学校生徒商業研究発表大会(静岡県・静岡市民文化会館) 21日(水)はリハーサル
6	20(日)	定時評議員会・第1回理事会(全商会館)	12	25(日)	第61回ビジネス文書実務検定試験
	17(日)	第136回珠算・電卓実務検定試験		上旬	「商業教育研究」第70号発行
	23(土)	第2回理事会		8(土)・9(日)	商業教育講習会(Javaプログラミング講座・全商会館)
	24(日)	第86回簿記実務検定試験		8(土)~12(水)	第9回高校生国際交流事業(台湾) 8日(土)は事前研修
	下旬	高校生奨学事業奨学金給付	1	16(日)	第61回英語検定試験
7	〃	ビジネス文書検定ニュース第53号発行		13(日)	第35回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト(全商会館)
	上旬	平成30年度「会員名簿」発行		19(土)	第5回理事会
	1(日)	第60回ビジネス文書実務検定試験		20(日)	第60回情報処理検定試験
	8(日)	第6回ビジネスコミュニケーション検定試験		27(日)	第87回簿記実務検定試験
	中旬	「全商会報」第136号発行	2	2(土)	臨時評議員会・第6回理事会(全商会館)
	15(日)	第34回全国高等学校簿記コンクール(東京・東京富士大学)		3(日)	第33回商業経済検定試験
	下旬	第30回全国高等学校情報処理競技大会(未定)		15(金)	卒業生成績優秀者表彰締切
	23(月)~27(金)	商業教育講習会(会計実務に関する講義と実習・大阪ビジネスフロンティア)		〃	三種目以上1級合格者表彰締切
	24(火)~26(木)	商業教育講習会(ビジネス経済に関する講義と実習・全商会館)	3	16(土)	全国珠算・電卓教育研究協議会(全商会館)
	24(火)~27(金)	商業教育講習会(情報スキルを伸ばす講義と実習Ⅰ・全商会館)		〃	全国ビジネス文書教育研究協議会(全商会館)
8	下旬	英語検定ニュース第50号発行		20(水)	平成31年度助成事業申請締切
	30(月)~8/3(金)	商業教育講習会(会計実務に関する講義と実習・全商会館)		9(土)	平成31年度助成事業審査委員会
	31(火)~8/3(金)	商業教育講習会(情報スキルを伸ばす講義と実習Ⅱ・全商会館)		〃	第7回理事会
	1(水)	第65回全国高等学校珠算・電卓競技大会(東京・東京武道館)		12(火)	平成31年度助成事業決定通知
	1(水)~3(金)	第66回全国商業教育研究大会(大阪・大阪国際交流センター、大阪ビジネスフロンティア高校、興國高校)	3	中旬	大学生奨学事業奨学金第2回交付
	上旬	第65回全国高等学校ワープロ競技大会(未定)		16(土)	全国英語教育研究協議会(全商会館)
	6(月)~9(木)	第55回実用英語セミナー(全商会館)		〃	全国情報処理教育研究協議会(全商会館)
	6(月)~10(金)	第11回全国商業教育指導者研修会(全商会館)		17(日)	全国商業経済教育研究協議会(全商会館)
				〃	全国簿記教育研究協議会(全商会館)
				19(火)	平成30年度助成事業報告締切
				下旬	計算実務第55号発行

平成30年度 各種検定試験実施期日及び受験料内訳

公益財団法人 全国商業高等学校協会

検定試験名	回数	実施期日	申込期間
珠算・電卓実務検定試験 Official Examination in Abacus and Electric Calculator	136	平成30年 6月17日(日)	平成30年4月6日(金)～4月19日(木)
	137	平成30年11月11日(日)	平成30年9月5日(水)～9月19日(水)
簿記実務検定試験 Official Examination in Bookkeeping	86	平成30年 6月24日(日)	平成30年4月6日(金)～4月18日(水)
	87	平成31年 1月27日(日)	平成30年10月25日(木)～11月5日(月)
ビジネス文書実務検定試験 Official Examination in Business Documents	60	平成30年 7月 1日(日)	平成30年4月13日(金)～5月7日(月)
	61	平成30年11月25日(日)	平成30年9月13日(木)～10月4日(木)
英語検定試験 Official Examination in English	60	平成30年 9月 9日(日)	平成30年6月4日(月)～6月22日(金)
	61	平成30年12月16日(日)	平成30年9月25日(火)～10月16日(火)
情報処理検定試験 Official Examination in Computer	59	平成30年 9月23日(日)	平成30年6月4日(月)～6月22日(金)
	60	平成31年 1月20日(日)	平成30年10月15日(月)～11月2日(金)
商業経済検定試験 Official Examination in Commercial Economics and Laws	33	平成31年 2月 3日(日)	平成30年10月29日(月)～11月12日(月)
会計実務検定試験 Official Examination in Accounting	10	平成30年10月28日(日)	平成30年9月3日(月)～9月14日(金)
ビジネスコミュニケーション検定試験 Official Examination in Business Communication	6	平成30年 7月 8日(日)	平成30年4月10日(火)～5月11日(金)

各受験料内訳 (+は消費税額加算を意味する)

単位：円

		1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	備 考
珠 算 ・ 電 卓	普	926 +74	普 926 +74	普 926 +74	(4 級 ～ 6 級) 834 +66			1～3級は、2部門（普通計算・ビジネス計算）合格で級合格 1部門につき ￥1,000- 4～6級 ￥900-
	ビ	926 +74	ビ 926 +74	ビ 926 +74				
簿 記		1,204 +96	1,204 +96	1,204 +96				2科目（会計・原計）合格で1級 1科目につき ￥1,300-
ビジネス文書	ビ	1,112 +88	ビ 1,019 +81	ビ 834 +66	ビ 649 +51	2部門（ビジネス文書・速度）合格で級合格 ビジネス文書部門 1級 ￥1,200- 2級 ￥1,100- 3級 ￥900- 4級 ￥700- 速度部門 各級 ￥800-		
			速度 741 +59					
英 語		1,204 +96	1,204 +96	1,112 +88	1,112 +88	1・2級 ￥1,300- 3・4級 ￥1,200-		
情 報 処 理		1,667 +133	1,389 +111	1,204 +96				1級の各部門 ￥1,800- 2級の各部門 ￥1,500- 3級 ￥1,300-
商 業 経 済			1,204 +96	1,204 +96				2級の科目2科目以上合格で1級 1科目につき ￥1,300-
会 計 実 務	(高校生)			1,667 +133				1科目につき ￥1,800-
	(一 般)			2,686 +214				1科目につき ￥2,900-
ビ・シ・ネスコミュ ニケーション				1,204 +96				￥1,300-

平成 30 年 4 月 1 日

各都道府県検定委員会委員長 様

公益財団法人全国商業高等学校協会
理事長 中山博之
(公印省略)

平成 30 年度 各種検定試験の適正実施について (通知)

平素より本協会の諸事業に格別のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

お陰様で昨年度も検定試験が滞りなく実施することができました。改めて御礼申し上げます。

さて、各都道府県におかれましては、検定試験の実施にあたり、問題等の保管管理、監督・採点についても厳正な体制の構築に努め、信頼性や社会的評価を一層高められるよう格段のご配慮をお願い申し上げます。

本年度の検定試験実施にあたり、改めて下記の点について確認させていただきますとともに、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、お手数ですが貴管下の本部校並びに試験場校・分会場校への周知・徹底をいただきますようお願い申し上げます。

記

1 試験問題の管理等について

試験場校委員長(当該校校長)は、全商協会から送付される試験問題等の袋数を確認の上、試験当日まで厳重に保管し、試験問題の封筒の開封は試験当日行い、試験問題の紛失や漏洩のないようお願いいたします。

なお、試験問題はすべての検定で試験期日の 10 日前(木曜日)に学校に到着するよう宅配便によりお送りします。

2 試験日時の厳守について

試験場校委員長(当該校校長)は、検定試験の統一実施日や試験開始・終了時間を厳守するとともに、採点等も厳正に行い、受験生などに不信感を与えることのないよう、公正・公平な試験の実施をお願いいたします。

なお、受験生から体調不良によるトイレ利用の申し出があった場合は、平成 29 年 7 月 20 日付で、通知している『「各種検定試験における遅刻及び途中退室の取扱いについて(通知)」の運用について』を適用し、対応してください。

3 携帯電話等の扱いと試験問題の回収について

携帯電話等の通信機器の試験会場への持ち込みは原則として禁止いたします。

なお、持ち込みを認める場合においては、通信機器等の電源を切り、いかなる目的にも使用できないようにするようご指導をお願いいたします。

また、検定の種目によっても異なりますが、関係書類集の「実施上の注意事項」において、一定の時間を区切り、遅刻を認めていることもあり、試験問題の回収についても引き続き一旦回収するよう、よろしくお願いいたします。

4 検定試験実施時における緊急時の対応について

全国瞬時警報システム(Jアラート)による緊急情報が発令された場合には、平成 29 年 9 月 9 日付で、通知している「検定試験実施時における緊急時の対応について(通知)」を適用し、対応してください。

5 答案用紙の保管期間について

検定試験の答案用紙の保管期間は、「検定試験実施の翌年度末まで」ですので、ご留意ください。

6 試験場校経費、本部校経費等の会計処理について

収支報告書等は、規定に従い作成してください。経費の支出にあたっては、社会通念に照らし、世の批判を浴びることのないよう留意するとともに、検定試験実施に直接関わる経費のみを支出し、透明性のある会計処理をお願いいたします。

なお、都道府県検定委員会・都道府県本部校・試験場校における、全ての会計報告書類、帳票、証ひょう等は、10 年間保管してください。(公益法人会計における内部管理事項の規定)

また、試験場校経費及び本部校経費は、渡し切りではなく全商からの「仮払い」と捉えておりますので、残金は返金して頂くことになります。

7 試験委員の委嘱について

検定実施日(日曜日)の監督・採点等の業務について、「教育に関する兼職等承認申請書」を提出するよう指示されることがあります。この場合、試験委員に対する委嘱状が必要になります。「検定試験関係書類集」に記載のとおり、試験場校委員長(当該校校長)が試験委員を委嘱することとしています。委嘱状の交付は、各都道府県検定委員会では対応されますようお願いいたします。

8 試験場校監督者・採点者の傷害保険加入について

検定実施日(日曜日)の監督・採点等の業務に携わる先生方には、全商協会にて傷害保険に一括加入しております。また、施設設備の損傷に対する施設賠償責任保険にも加入しておりますので事故等が発生した場合には、速やかにご連絡ください。

以 上



平成 29 年 7 月 20 日

都道府県検定委員会委員長 様

公益財団法人全国商業高等学校協会

理事長 中 山 博 之

(公印省略)

「各種検定試験における遅刻及び途中退室の取扱いについて（通知）」の運用について

本年度の検定試験実施にあたり、各試験場校並びに本部校の先生方のご協力により、厳正な体制で実施することができ厚く御礼申し上げます。

さて、平成 29 年 4 月 13 日付「各種検定試験における遅刻及び途中退室の取扱いについて（通知）」の運用につきまして、下記のとおり Q & A を作成いたしましたので、誠に恐縮ですが本部校並びに試験場校への周知・徹底をお願いいたします。

記

Q : 受験生から体調不良によるトイレ利用の申し出があった場合

A : 監督者の判断により、次のことを配慮し、一時退室を認めることができる。

- ① 一時退出時間は、必要最小限の時間とする。
- ② 一時退室した分の試験時間の延長は認めない。
- ③ 不正行為の防止に努める。
- ④ 検定試験終了後に試験場校委員長へ報告すること。

連絡先

公益財団法人全国商業高等学校協会

〒160-0015

東京都新宿区大京町 26 番地

TEL 03-3357-7911

FAX 03-3341-1039

担当 鈴木 庸子・宝福 真紀子



平成 29 年 9 月 9 日

各都道府県検定委員会委員長 様

公益財団法人全国商業高等学校協会
理 事 長 中 山 博 之
(公印省略)

検定試験実施時における緊急時の対応について（通知）

平素より本協会の諸事業に格別のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、過日、弾道ミサイルが日本に飛来する可能性があると判断され、全国瞬時警報システム(Jアラート)による緊急情報がありました。今後、検定試験実施時において同様の事態となった場合の対応について連絡いたします。

全商協会主催の各種検定試験実施時に全国瞬時警報システムによる緊急情報があった場合は、生徒の安全を確保するとともに、安全が確認された場合には下記の基本方針に基づき、各試験場校等で適切に対処するようお願いいたします。

なお、お手数ですが貴管下の本部校並びに試験場校・分会場校への周知・徹底をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

記

基本方針

全商協会主催の各種検定試験の可否は、生徒の進路に多大な影響を及ぼす可能性がある。そのため、全国瞬時警報システムによる緊急情報が伝達され、その後安全の確認をされた場合、受験生徒の不利益にならないよう試験場校委員長(校長)の判断により適切に対応する。

- (1) 検定試験日に緊急情報があった場合、検定試験開始時間を最小限繰り下げ実施することを認める。なお、開始時間の繰り上げは認めない。
- (2) 検定試験開始後に緊急情報があった場合、安全確認後に検定試験を継続して実施することを認める。なお、避難行動等によって生じた時間については、それに相当する分の時間を延長することができる。
- (3) 検定試験問題は、平常時同様、全て回収する。
- (4) 検定試験の実施(継続して実施を含む)が困難な場合は、平成 29 年 4 月 5 日付けで、通知している「検定試験中止に伴う受験料の取扱いについて(通知)」を準用し、対応する。

平成 30 年 4 月 1 日

都道府県検定委員会委員長 様

公益財団法人全国商業高等学校協会
理事長 中山 博之
(公印省略)

検定試験中止に伴う受験料の取扱いについて (通知)

日頃より検定試験の実施につきまして、ご支援・ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

検定試験の受験料については、「理由の如何を問わず返金しない」こととなっておりますが、下記の場合に限り、受験料を返金いたします。

つきましては、お手数ですが、貴管下の本部校並びに試験場校・分会場校へ周知・徹底をお願いいたします。

記

1 受験料の返金対象について

試験場校委員長（当該校校長）は、都道府県検定委員会及び本部校と協議の上、試験場校委員長が検定試験を実施しないと判断した場合は、当該試験場校での受験申込者（該当者）の受験料を返金します。

また、分会場校についても同様の取り扱いとします。

なお、**受験料の返金は学校感染症^(※)及び自然災害に限りです。**

※ 学校感染症とは、学校保健安全法施行規則 第十八条に定める感染症の種類とする。

学校感染症の場合

- (1) 同一回の検定試験において、すべての検定試験を実施しない場合
- (2) 学級閉鎖・学年閉鎖又は学校閉鎖により検定試験を実施しない場合

自然災害の場合

- (1) 同一回の検定試験において、すべての検定試験を実施しない場合
- (2) 急遽、各級・部門・科目の試験が実施できない場合

2 全商協会への連絡方法について

試験場校・分会場校で検定試験中止が生じた場合は、必ず当該検定試験日の午前 9 時までに、本部校から全商協会へ電話（03-3357-7911）にてご連絡ください。

ただし、自然災害により急遽、検定試験を実施できない場合に限り、実施しないことが決定次第、速やかに本部校から全商協会へ電話にてご連絡ください。

3 返金の方法について

試験場校並びに本部校は、検定日以降 Web システムにて「受験申込者数変更」の処理をしていただいたからの返金となります。

なお、返金は本部校経由で行います。

4 その他

- (1) 試験問題等は、検定試験当日まで厳重に保管し、検定試験終了後は試験場校でご利用ください。
- (2) 検定試験中止により試験場校で検定試験を一切実施しなかった場合、準備に要した費用については、都道府県検定委員会でご負担ください。
- (3) 試験場校・分会場校において、一部の検定試験を実施しなかった場合の経費の支出は、変更後の試験場校経費の範囲内とします。

ただし、やむを得ず準備に要した費用について不足が生じた場合は、都道府県検定委員会にご相談ください。

以 上

平成30年4月1日

各都道府県検定委員会委員長 様

公益財団法人全国商業高等学校協会
理事長 中山 博之
(公印省略)

熊本地震による「検定受験料免除事業」の再延長について（通知）

日頃より本協会の諸事業について、ご理解・ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

平成28年度から実施してきた熊本地震による「検定受験料免除事業」について、被災地の復興の進捗状況を考慮し、さらに1年間の延長をいたします。

つきましては、以下の内容をご確認いただき、受験料免除の手続を遺漏なく進めていただきますよう、お願い申し上げます。

また、「受験料免除申請書」は会計書類の一部となりますので、試験場校委員長の印（もしくは校長の私印）を押印後、原本は本部校へ郵送し、コピーは試験場校で10年間保管くださるようお願いいたします。

なお、お手数をおかけしますが貴管下の本部校並びに試験場校・分会場校への周知をお願いいたします。

1 対象生徒について

次にあげる項目に該当する生徒。

(1) と (2) の両方に該当する生徒。

(1) 熊本地震の被害を受けた生徒で、世帯の収入が著しい減少をきたし、世帯収入が市町村民税所得割額 51,300 円未満であるもの。

(2) 熊本地震により次の該当被害を受けたもの。（以下のうち、いずれかに該当するもの）

(ア) 住居の全壊または大規模半壊（全焼または半焼を含む）

(イ) 住居の流出

(ウ) 保護者の死亡、行方不明、長期入院、または失業

2 免除対象の検定試験について

全商協会主催のすべての検定試験とする。

3 実施期間について

平成30年度とする。

4 受験料免除の認定について

各高等学校長が責任を持って行うものとする。対象生徒の認定に必要な証明書類については学校長が指定するものとし、各学校で保管し、全商協会本部への提出は不要とする。

5 手続き方法について

各検定試験等の関係書類集に記載されている手続きと受験料免除の手続きとの混乱を避けるため、全商協会は免除金額分を各試験場校に送金し、各試験場校においてはこの入金額を生徒からの受験料収入に充当する。

(1) 試験場校は、Web システム上の「受験申込者数報告書」を印刷した書類を、送付する際に合わせて、別紙「受験料免除申請書」（様式1）に、級・部門等ごとの免除生徒数、免除金額及び送金口座を記入して、本部校に送付する。

送金については、全商協会からの免除金額分の入金後、すみやかに「受験申込者数報告書」の送金額合計を本部校に送金する。

(2) 本部校は、Web システム上の「受験申込者数集計表」を印刷した書類を、送付する際に合わせて、免除申請校からの「受験料免除申請書」別紙（様式1）の原本を全商協会に送付する。（コピーを本部校で保管する）

送金については、受験料免除申請校からの入金後、すみやかに「受験申込者数集計表」の送金額合計を全商協会に送金する。

※受験料免除申請書（様式1）につきましては、検定 Web システムよりダウンロードできます。

内閣府

防災情報のページ

災害に係る住家の被害認定基準運用指針

総則より抜粋

被害の程度	認定基準
全壊	住家がその居住のための基本的機能を喪失したもの、すなわち、住家全部が倒壊、流失、埋没、焼失したもの、または住家の損壊が甚だしく、補修により元通りに再使用することが困難なもので、具体的には、住家の損壊、焼失若しくは流失した部分の床面積がその住家の延床面積の70%以上に達した程度のも、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が 50%以上に達した程度のもとする。
大規模半壊	居住する住宅が半壊し、構造耐力上主要な部分の補修を含む大規模な補修を行わなければ当該住宅に居住することが困難なもの。具体的には、損壊部分がその住家の延床面積の50%以上70%未満のもの、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が40%以上50%未満のものとする。
半壊	住家がその居住のための基本的機能の一部を喪失したもの、すなわち、住家の損壊が甚だしいが、補修すれば元通りに再使用できる程度のも、具体的には、損壊部分がその住家の延床面積の20%以上70%未満のもの、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が20%以上50%未満のものとする。

※全壊、半壊：被害認定基準による

※大規模半壊：「被災者生活再建支援法の一部を改正する法律の施行について（平成19年12月14日付府政防第880号内閣府政策統括官（防災担当）通知）」による

年度別各種行事開催地一覧

	秋季総会	商研大会	生徒商研	競技大会					研究 協議会
				珠算・電卓	簿記	ワープロ	英語	情報処理	
平成15年度 (2003年)	東北 宮城	中国 山口	関東 栃木	近畿 大阪	東京 昭和女子大学	東京 横浜商科大学	東京 野口会館	東京 新宿山吹	全商会館
平成16年度 (2004年)	九州 福岡	京神 東京	北海道 函館	東海 三重	東京 昭和女子大学	東京 横浜商科大学	東京 野口会館	東京 江東商	全商会館
平成17年度 (2005年)	東海 三重	関東 埼玉	京神 東京	京神 神奈川	東京 昭和女子大学	東京 横浜商科大学	東京 7th 市ヶ谷	東京 昭和女子大学	全商会館
平成18年度 (2006年)	関東 群馬	東海 静岡	九州 鹿児島	北信越 新潟	東京 昭和女子大学	東京 横浜商科大学	東京 全商会館	東京 昭和女子大学	全商会館
平成19年度 (2007年)	四国 高知	京神 東京	近畿 大阪	東北 宮城	東京 昭和女子大学	東京 横浜商科大学	東京 全商会館	東京 昭和女子大学	全商会館
平成20年度 (2008年)	近畿 和歌山	北海道 札幌	四国 香川	東京 荒川商	東京 昭和女子大学	東京 横浜商科大学	東京 全商会館	千葉 千葉商科大学	全商会館
平成21年度 (2009年)	北海道 旭川	京神 東京	東海 三重	九州 大分	東京 明治大学	東京 高千穂大学	東京 全商会館	千葉 千葉商科大学	全商会館
平成22年度 (2010年)	中国 島根	東北 秋田	京神 神奈川	千葉 明海大学	東京 明治大学	東京 高千穂大学	東京 全商会館	千葉 千葉商科大学	全商会館
平成23年度 (2011年)	北信越 富山	京神 東京	中国 広島	東京 荒川商	東京 明治大学	東京 高千穂大学	東京 全商会館	千葉 千葉商科大学	全商会館
平成24年度 (2012年)	東北 岩手	九州 長崎	四国 徳島	東京 大田桜台	千葉 明海大学	東京 高千穂大学	東京 全商会館	千葉 千葉商科大学	全商会館
平成25年度 (2013年)	九州 熊本	京神 東京	関東 千葉	東京 赤羽商	東京 東洋大学	東京 高千穂大学	東京 全商会館	千葉 明海大学	全商会館
平成26年度 (2014年)	東海 静岡	北信越 長野	北海道 旭川	東京 千早	東京 法政大学	東京 高千穂大学	東京 全商会館	千葉 明海大学	全商会館
平成27年度 (2015年)	近畿 兵庫	京神 東京	東北 青森	東京 第三商	東京 法政大学	東京 第三商	東京 全商会館	千葉 明海大学	全商会館
平成28年度 (2016年)	関東 千葉	中国 島根	九州 宮崎	東京 東京武道館	東京 法政大学	東京 高千穂大学	東京 全商会館	千葉 明海大学	全商会館
平成29年度 (2017年)	中国 鳥取	京神 東京	北信越 長野	東京 東京武道館	東京 東京富士大学	東京 高千穂大学	東京 全商会館	千葉 明海大学	全商会館
平成30年度 (2018年)	四国 愛媛	近畿 大阪	東海 静岡	東京 東京武道館	東京 東京富士大学	首都圏	東京 全商会館	首都圏	全商会館
平成31年度 (2019年)	北海道 函館	九州 福岡	関東 埼玉	東北 宮城	近畿	東海 愛知	東京 全商会館	中国 広島	全商会館
平成32年度 (2020年)	北信越 福井	九州 沖縄	京神 東京	東北 福島	近畿	東海 愛知	東京 全商会館	中国 広島	全商会館

新学習指導要領に対応した全商簿記実務検定試験について

全商簿記研究部

2018（平成30）年度に新しい高等学校学習指導要領（以下、新学習指導要領）が文部科学省より公示され、2022年度入学生から新学習指導要領に基づく学習が年次進行で実施されることになります。

そこで本研究部では、全商簿記実務検定試験を新学習指導要領に対応させるために、検定試験の出題範囲と勘定科目を見直し、一部変更することを予定しております。現時点の移行スケジュール案は下記のとおりです。決定したものについては、次年度の研究協議会でご報告いたします。

全商簿記実務検定試験の移行スケジュール表（案）

		2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度	
		90 回	91 回	92 回	93 回	94 回	95 回	96 回	97 回	98 回	99 回
		6 月	1 月	6 月	1 月	6 月	1 月	6 月	1 月	6 月	1 月
現 行 検 定	3 級	→				○	—	—	—	—	—
	2 級	→				○	—	—	—	—	—
	会計	→				→		○	—	—	—
	原計	→				→		○	—	—	—
新 検 定	3 級	出題範囲表（案） 勘定科目表（案） の提示		出題範囲表 勘定科目表 の提示				○	→		
	2 級	出題範囲表（案） 勘定科目表（案） の提示		出題範囲表 勘定科目表 の提示				○	→		
	会計			出題範囲表（案） 勘定科目表（案） の提示		出題範囲表 勘定科目表 の提示			○	→	
	原計			出題範囲表（案） 勘定科目表（案） の提示		出題範囲表 勘定科目表 の提示			○	→	

